

<b>科目名</b>	文化史概論	<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	野沢 謙治		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	近代以降の歴史学が問題意識の欠如や瑣末な実証主義に陥る中で文化史というあたらしい歴史学の方法論が生まれた。この文化史の特質は他の専門分野の成果を積極的に受け入れるとともに歴史を総合的に把握することでもあった。この文化史のあり方を具体的に見るために網野善彦の『日本の歴史を読みなおす』を読むことにする。網野善彦の歴史の見方は他の専門分野の成果を考慮するとともに従来の歴史学が積極的に取り上げなかった下層の人々、差別された人々、芸能民、女・子ども・老人に注目し、さらに非稲作文化、商工業、交通・交易の歴史に重点を置いた。網野善彦の歴史学にふれることで日本史の常識を疑い、歴史を新鮮な視点でみることができるようになりたい。		
<b>達成目標</b>	授業目標でふれたように授業の内容は下層の人々、差別された人々、芸能民、女・子ども・老人、さらに非稲作文化、商工業、交通・交易といった従来の日本史では積極的にとりあげてこなかったテーマである。このような歴史的問題をとりあげることによって日本史の常識に対して疑問が生じるとともに、その疑問にいかにか専門的に対処するかという歴史研究の醍醐味を体験できると同時に日本史研究に絶えず新しい見方をもって臨むことができるようになる。		
<b>受講資格</b>	専攻科1年生	<b>成績評価 方法</b>	授業での発表とレポートで成績を評価する。授業の発表40点、レポート60点の100点で成績を出す。
<b>教科書</b>	網野善彦『日本の歴史を読みなおす』2010年 筑摩書房（ちくま学芸文庫）		
<b>参考書</b>	授業の中で適宜、指示する。		
<b>学生への要望</b>	問題意識をもって授業に臨むとともに、あらかじめ決められた教科書の発表する範囲をよく読み、歴史用語を調べておくこと（1時間ぐらい時間をかけて）。また授業をふまえて、その内容をまとめておくこと（1時間）。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜日のⅢ、Ⅳコマ目、研究室（創学館4階No.5）で行う。		
<b>自学自習</b>	教科書は必ず読み歴史用語は調べ、内容を自分なりにまとめておくこと。翌週の授業には質問の時間を確保するので不明なところは必ず質問すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	文化史とは	近代以降の歴史学をたどりながら文化史という新しい歴史学の誕生とその特徴を京都大学史学科、津田左右吉の古代史、柳田国男の民俗学などから考えることにします。
2	文化史と社会史	1990年代に誕生した社会史の歴史の見方は従来の政治史中心の歴史ではなく、下層の人々や職人、商人、山人、海人、芸能民などが対象であり、歴史学の常識をくつがえしました。テキストの作者・網野善彦の歴史学もまた社会史の立場に近いのです。
3	文字と言葉	歴史学が対象にする文字史料は全国にあり、誰でも読むことができます。一方、言葉は方言のように地域性があり、理解が困難なことがあります。ここに普遍的な歴史と個別的な歴史という歴史の二重性が存在することになります。
4	片仮名と平仮名と漢字	片仮名は神に訴える起請文や口頭の言葉が記録される時に使用され、平仮名は女性の私的な世界で使用され、漢字は男性の公的な世界で使用され、国家制度の根幹を支えていました。文字のあり方によって歴史が違って見えてくるのです。
5	銭と富	古代末以降、中国から大量の銭が持ち込まれました。銭は地中や建造物の下に埋められるなど呪術できに利用されましたが、中世になると米や絹に代わって交換価値の規準になります。さらには銭を貯えた富裕者が生まれました。
6	商品の発生	モノの交換は本来、神への供物であり、贈答関係のなかでの霊の交換でありました。しかし、銭での交換が広まるとモノは単なる物として商品になり、市場も聖性を失います。
7	商工業民の聖性	全国を漂泊していた商人や職人は神仏の供御人として聖なる存在と見なされ、交易する物や製作品は神仏や天皇に納め、代わりに自由という特権をあたえられていました。
8	鎌倉新仏教と商工業	一神教的性格があった鎌倉新仏教は商工業や金融に積極的にかかわっていました。それはヨーロッパの資本主義がキリスト教・プロテスタントによって生まれたことと比較することができます。
9	古代の差別	律令国家においては奴婢という差別される人々が存在していました。さらに官奴婢や私奴婢など多様な差別民が存在していました。しかし、単なる奴隷ではなく自由をもっていました。それは奴婢には聖性が認められていたからです。
10	ケガレと差別	ケガレは平安京という都市空間の中で、しかも自然との関係が不安定になった時に生まれました。またケガレの感染という感覚が生まれ、その感染源として非人が売れます。しかし、非人は本来、ケガレを清める役割があったのです。
11	非人の差別と聖性	河原者、放免などの非人は社会的活動、経済的活動、芸能的活動、そして宗教的活動を考える日本の文化に大きな痕跡を残しました。また寺社と密接な関係にもありました。そこから浮かび上がるのは非人の聖性です。
12	一遍聖絵と非人	一遍聖絵には多くの非人がえがかれています。それ時宗教団が非人たちによって支えられていたと同時に一遍によって救済される存在でもあったからです。しかし、非人は救済されない存在になってしまいます。
13	フロイスが見た女性	宣教師フロイスの『日欧文化比較』によれば日本では女性は自由に離婚し、自由に旅をするとあります。この記述は歴史的事実なのであろうか。ヨーロッパの女性とは異なる日本の女性の自由を考えます。
14	女性の職能集団	女性が所領を持ち、荘園の役人になり訴訟を起こしています。また倉の管理や金融業にも従事していました。しかも、女性にしか扱えない商品もありました。女性性と社会的分業を考えます。
15	女性のケガレ	双系社会であった日本では女性の地位は低くはなかった。やがて制度としての家父長制が広まる中で女性の地位は低下していきます。さらに仏教によっても女性は救われない存在になっていきます。ここに女性の差別が生まれるのです。
16	天皇と日本	天皇という称号と日本という国号は天武、持統朝の頃に定まったとされています。そこには中国の影響が考えられますが、中国の易姓革命や天命思想はみることにはできません。その代わりに皇孫思想という独自の思想がみられます。
17	天皇の二つの顔	天皇には法体系や行政組織に基づく律令国家の長としての役割がありました。それは機能性と合理性を内包した地位でした。一方、天皇には太陽神につながる聖性と未開性がみられます。
18	天皇の危機	中世、天皇の統治権は武家に奪われ、室町時代には足利義満は日本国王を名乗ります。さらに織田信長によって最大の危機を迎えますが、豊田秀吉、徳川家康によって危機は回避されます。天皇の権威の命脈の源泉はどこにあるのでしょうか。
19	百姓は農民か	百姓＝農民という常識は近世からであり、本来の百姓の中には職人、商人、漁民、山民なども含まれていました。それが農民になったのは税が水田にかけられ、全ての税が米に換算されたからです。米が価値基準になったのです。
20	日本は島国か	旧石器時代から日本は孤立した島国ではありませんでした。それは遺跡から発掘される遺物が遠隔地や外国からもたらされているからです。その基底には想像以上に川や海を利用した交通、交易が盛んであったからです。
21	西と東の文化の差	交通と交易は地域の文化の均一化を促しますが、日本では西と東で文化的に大きな相違がみられます。これは西は中国、朝鮮から、東は北海道経由でユーラシア大陸から、また西と東の中間の北陸には大陸から日本海をわたって直接に伝わりました。
22	海の交通と税の請負	10世紀になると国守や受領などによる税の請負体制ができあがります。こうした体制が構築できたのは荘園などで税の計算が完璧にできるとともに税を運べる安定した川や海による交通が全国的に出来上がっていたからです。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	地域の都市	列島の全域をおおつた交通、交易は各地域の川や海の交通の便利な所に都市を形成させます。さらに荘園の領主は、このような都市を支配に組み込みます。列島の各都市は交通、交易のネットワークの中に組み込まれていくこととなります。
24	荘園公領制	11世紀から13世紀にかけて中世の土地制度である荘園公領制が確立します。これらの荘園や公領は自給自足的と考えられていましたが、多様な年貢を納め、その年貢は交易によって得ていたことが明らかになりました。
25	悪党と海賊	悪党や海賊いわれた集団の実態は山の領主や海の領主であり、交通や交易にかかわるとともに商業や金融にも関係していました。しかも交通路の安全は悪党や海賊によって保障されていたのです。
26	悪とは	悪党の悪は日常の秩序を乱すこと、利潤や利子を得ること、さらには商業や金融業が悪とみなされていました。しかも悪には人の力を超えること、また人の力を超えた存在につながることもみなされていました。
27	悪党と農本主義	鎌倉幕府が悪党を厳しく取り締まったのは悪党が公権力からはずれた商人や流通、金融業者であり、独自のネットワークをもっていたからです。それは土地を基礎とする地頭や御家人の農本主義に反していたからです。
28	悪党と一遍	一遍の教えは商人や金融業者などの悪党に支持され、一遍の遊行は悪党のネットワークの中で安全に行われていました。それに反対する勢力が武家などの農本主義者でした。宗教の世界でも悪党と農本主義者が対立していました。
29	重商主義と農本主義	悪党を中心とする勢力は農本主義に対して重商主義といえます。15世紀から16世紀、重商主義は海外につながるまでに発展しましたが、戦国時代、近世初期に土地を基礎とした課税方式、米年貢の農本主義が息を吹き返すのです。
30	新しい歴史像	日本は全体として農業的色彩が強いといわれ、歴史も文化も農業、殊に稲作と関連づけられてきました。しかし、13世紀頃から銭の流通、信用経済の発展、金融資本が誕生してきました。まさに資本主義社会ができあがっていたのです。それは周辺の中国や朝鮮にも同時に起こっていたのです。

<b>科目名</b>	日本宗教の歴史と文化		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①文化学専攻の学生として必要な文化知識を習得させること。          ②幅広い専門知識を養わせること。          ③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>この授業は、末木文美士氏の『日本宗教史』（岩波新書）を教科書として使い、毎回輪読をし、日本宗教の歴史と文化を学ぶ。新書版だから、読みやすいというイメージがあるが、実際に読んでみると読めない言葉、わからない用語が多々ある。一字一句を声を出して読むという読書の経験が少なくなってきた今日では、一冊の本を時間をかけてじっくり読むという姿勢が珍しいと思われるかも知れないが、必要なことであり、学ぶという本来あるべき姿勢だと考える。なお、後期の概要については改めてお知らせする。</p> <p>〔授業終了時の到達目標〕</p> <p>①文化としての宗教を理解する。          ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。          ③紹介された諸事例について学問的な理解をする。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業終了時の到達目標〕</p> <p>①文化としての宗教を理解する。          ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。          ③紹介された諸事例について学問的な理解をする。</p>			
<b>受講資格</b>	短大専攻科2年	<b>成績評価 方法</b>	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。	
<b>教科書</b>	『日本宗教史』、末木文美士著。岩波新書、2006年。丸善などの書店で買い求めることができる。			
<b>参考書</b>	末木文美士『日本宗教史』、岩波新書。担当教員個人が持っているが、授業でよく参考にするので、できればそれぞれが一冊を購入することをおすすめする。			
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に積極的に参加すること。</li> <li>・ノートをこまめにとること。</li> </ul>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日16時～17時。担当教員の研究室（創学館No.5）			
<b>自学自習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。</li> <li>・事後学習：与えられた課題を期間内に完成すること(1時間)。</li> </ul>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	各回の内容や計画、成績評価の方法などについて説明するほか、教科書のことや参考文献購入のことについても話す予定です。必ず出席してください。
2	日本宗教史とはなにか	これまで日本史の立場に日本宗教史の研究が多かったが、宗教学独自の視点によるものはあまりないようである。宗教学独自の「日本宗教史」は可能か。これまでの議論を踏まえつつ考えてみる。
3	記紀神話の世界	古事記や日本書紀に伝えられている神々の構造を分析し、記紀時代の神話はいったい何を意味するのかを考える。丸山真男の「古層」の問題も話題にする予定である。
4	神と仏	仏教の伝来と神々の変容、神仏習合の諸相などについて、指定された教科書を一緒に読みながら、理解する。神話から歴史への移行に見られる宗教の役割を考えることも課題として予定されている。
5	神仏論の展開	これまでの話を踏まえ、中世の神仏論の展開を考えてみる。具体的には、実践しようとしての仏教思想、王法と仏法との関係を取り上げて話題にする。『日本霊異記』を参考しながら授業を進める予定である。
6	神仏と中世（1）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。
7	神仏と中世（2）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。
8	世俗と宗教（1）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。
9	世俗と宗教（2）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。
10	神道とナショナリズム（1）	近世の神道の展開などを話題にしなが、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。
11	神道とナショナリズム（2）	近世の神道の展開などを話題にしなが、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。
12	近代化と宗教（1）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。
13	近代化と宗教（2）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。
14	民衆宗教の形成	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総合的に考えてみる予定である。
15	前期のまとめ	レポートを書いて提出する。
16	後期のガイダンス	絵画に見る「天神さま」について
17	天神信仰における東福寺の位置づけについて	東福寺における天神信仰の伝承を探る
18	天神像の変容について	怨霊信仰から学問の神様への「変身」についての歴史的な過程をたどる
19	怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る
20	天神信仰と陰陽道について	陰陽道の動向を視野に入れつつ、天神信仰の展開をさらに探る。
21	梅と天神信仰	菅原道真像を手がかりに梅と天神の変容のあり方を探る。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。
23	学問の神様としての菅原道真像の形成	学問の神様としての菅原道真像の形成とその確立について探る。
24	天神信仰の広がりについて	天神信仰の地方への広がりについて具体的な事例を取り上げて述べる。
25	東北地方における天神信仰	東北六県における天神信仰の実体を写真などを通じて探る。
26	会津地方における天神信仰の特徴	学問の神様へと変容された会津地方の天神信仰の実体とその特徴について探る。
27	庶民信仰としての天神信仰	地域の人々が天神信仰とどのように関わっているかを市町村の関連資料を基に探る。
28	天神信仰の現在—地方神社における合格祈願を手がかりに—	神社と天神信仰の関係について、会津地方の事例を手がかりに探る。
29	まとめ～その①天神信仰の宗教性と歴史的性格	まとめに当たって、天神信仰の宗教性と歴史的性、地方的特徴について考える。
30	まとめ～其の②天神信仰の宗教性と歴史的性	前回と同じ。期末試験については、レポートを提出すること。詳しいことは授業で指示する。

科目名	日本古代の歴史と文化		対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員	会田 容弘			
開講期	通年			
授業概要	考古学的方法により書かれた通史である奈良文化財研究所編『日本の考古学』をテキストにして、具体的な事例を補いながら授業			
達成目標	＜到達目標＞日本原始・古代史の最新の考古学的成果の理解し、それについて説明ができるレベルにまで到達できること。			
受講資格	考古学・古代史の基礎理解があること	成績評価 方法	授業への参加度を平常点とし、課題レポートを課す(平常点30%、レポート70%)。授業の60%以上の理解が必要である。考古学で専攻科論文を作成する学生は80%以上の理解が必要である。	
教科書	奈良文化財研究所編『日本の考古学』上下(学生社)			
参考書	講義中に紹介する。			
学生への要望	授業の前に教科書を熟読し、わからない点などを確認し、ノートを作成すること。復習には授業時の内容をノートにまとめておくこと。			
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。 時間がある限り、対応する。メールの質問も可。面接が必要な場合はメールでアポをとってから質問時間を設ける。			
自学自習	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の教科書を読んでおくこと。(1時間) 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	日本考古学・日本歴史学の時代区分	時代区分論は歴史観だけでなく、考古学の世界では新発見によって変化する。また、日本という枠組みの変化もある。日本列島の地域区分とその中の時代区分を概観する。
2	日本列島の形成史	地質学、地形学、古環境学からみた日本列島の形成過程を概観する。
3	旧石器時代概説	後期旧石器時代の列島に展開した石器群の全体像を把握した上で、世界的な寒冷化に適応した旧石器人の姿を見てゆく。
4	更新世と完新世の哺乳動物	日本では動物化石の出土がきわめて少ない。更新世において、人類遺物との共伴が認められるのは、花泉と野尻湖である。人類遺物の共伴しない石灰岩地帯から出土した化石の情報を含めて、概観する。完新世になると貝塚が形成されるので動物相と人類との関係がより明瞭になる。特に哺乳動物と人類の関係を考察する。
5	更新世と完新世の植物	植物相は泥炭層などの調査により花粉分析や大型植物遺体の研究によって具体的に議論されている。特に植物相の変化と人類の行動の変化が大きな意味を持つてくる。基本的な研究方法を理解したうえで、これまでの研究成果を概観する。
6	東北アジアと日本の旧石器	東北アジアの中に日本の旧石器を位置付けようという解釈の試みが盛んである。それらの研究者がどのような目論見でそのような研究方向を目指すのか、その理解が必要である。そして、その方法は何か。批判的に研究を概観したい。
7	旧石器時代の地域色、集落と集団	近年の日本旧石器研究の成果は地域性、集落が見えてきたとの理解である。どのような研究方法でそれが見えるようになったのか、そしてその見えたものはなんなのか。研究成果を批判的に理解し、新たな研究目的と方法を考えてゆきたい。
8	縄文時代概説	縄文時代の時間的枠組み、その要素を文化史的に位置付けてみる。それが、日本考古学が蓄積してきた縄文時代研究である。そしてその中から、いくつかの問題点を抽出してゆきたい。
9	縄文人	縄文文化の担い手である縄文人の形質人類学的特徴をみてゆく。さらに近年の遺伝子研究の成果から、縄文人の成り立ちについて、その後の縄文人の行方、日本人との関係まで、研究の最先端を概観する。
10	定住と縄文文化の成立	列島内の気候及び環境変化状況を見た上で、定住生活の意味を考える。定住生活の開始期である縄文草創期の住居遺構、土器、石器について地域の多様性を見てゆく。縄文早期には列島の地域ごとに小さな環境に適応した多様な集落の様相が明らかになる。大規模な集落を形成する遺跡も最近明らかになっている。それらの具体的事例を検討しながら、縄文社会の確立する過程をみてゆきたい。
11	地域間の交流、大陸との交流	ヒスイ、黒曜石など産地の限定される資料を用いて、交易の可能性を検討する。
12	縄文時代の住居と集落	温暖化した気候の中で大規模な集落が形成されるようになる。青森県三内丸山遺跡や長野県阿久遺跡などが代表的である。集落を構成する住居・墓地・広場・貯蔵穴・廃棄場の様相を実例を検討しながら理解を深めてゆく。
13	竪穴住居の構造	様々な竪穴住居の復元案が提示され、復元家屋が作られている。考古学的証拠との整合性という面からみてゆく。
14	縄文社会と狩猟獲得技術	縄文社会を狩猟獲得技術の面から見てゆく。それを支えた技術の姿を明らかにする。
15	貝塚―狩猟と漁労	貝塚研究の重要性を里浜貝塚研・中沢貝塚などの研究を通してみてゆく。
16	縄文土器の年代学・型式学	松本彦七郎と山内清男の縄文土器型式学をみてゆく。
17	最初の土器	最古の土器研究の歴史と現在知られている最古級の土器を概観する。
18	生活道具としての土器とその技術	縄文土器の製作技術を動作連鎖仮説と実験を通してみてゆく。
19	勝坂式土器様式圏と火炎土器様式圏の対立	土器型式を人間集団の特徴としてとらえる縄文土器型式学がどのような議論を行っているのかを理解する。そして、その論拠がどこになるのかを検討する。
20	亀ヶ岡式土器	縄文晩期特に東北地方に広がる亀ヶ岡文化についてその多様な工芸品の具体例を検討する。さらに、最近明らかになりつつある亀ヶ岡文化の集落構成について検討する。
21	縄文世界の土器造形とその展開	造形物としての縄文土器もその技術から明らかにする。
22	縄文墓地	縄文時代を通して様々な墓制、埋葬法、墓域構成が見られる。時代地域の特性を具体的に見てゆく。
23	なぜ縄文時代は終わったのか	北海道には弥生文化が到達しなかった。続縄文文化と呼ばれる縄文時代以来の狩猟採集社会が継続していた。東北の弥生文化との相違点を見てゆく。
24	縄文人から弥生人へ	形質人類学からみた縄文人と弥生人の特徴を見てゆく。
25	弥生時代の始まり	AMS放射性炭素年代測定法の導入により、弥生時代の開始時期が500年これまでよりも古くなるという仮説が提示された。その論拠を明らかにする。
26	弥生時代概説	九州北部に導入された水稲稲作はその他にも金属器など多様な物質文化をもたらした。その結果、西日本では水稲稲作が成長した結果、大規模な集落が形成され、さらには集落間の抗争がおこり、階級社会が発生する。その過程を西日本の遺跡をもとに検討する。
27	稲の起源	稲の登場は年代論と不可分である。
28	稲作の伝播―ブタ・水田・農村	弥生時代の稲作中心の複合農業について概観し、列島内の違いをみてゆく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	弥生文化—石器・鉄器・木器	弥生時代になって新たに登場する鉄器、経文時代以来作られてきた石器と木器。素材を同じくして新たな道具が加わる。そして失われた道具もある。
30	青銅器の生産	九州から機内まで見られる青銅器の生産遺跡とその生産のあり方を概観する。

<b>科目名</b>	日本近世の歴史と文化		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	佐藤 愛未			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	前期：江戸時代において将軍の住居兼幕府の政が行われた場所、江戸城。この江戸城の中心でもあった本丸御殿は、用途によって表・奥・大奥と三分された。それぞれの構造からみた江戸幕府の政治・制度のありかたについて、江戸城の本丸御殿の役割とともに学ぶ。 後期：江戸時代約270年間、天下の泰平と政治の安定が続いたのはなぜであったのか。江戸時代に設けられた様々な仕組みなどに関する史料の読み方とあわせて学んでいく。 決められた課題について、学生が調査し口頭発表し、教員とのゼミナール形式に授業をすすめる。			
<b>達成目標</b>	江戸時代における、江戸城の役割、行政と社会の仕組みについて理解する。また、口頭発表を通して、文章講読や要約方法、史料の読み方などを学び、他者に伝える力を養う。			
<b>受講資格</b>	専攻科1年生	<b>成績評価 方法</b>	①研究課題が適切で調査研究が主体的、継続であり、口頭発表では研究課題を克服し、合理的な思考力でなされていること30点 ②レポート70点(前期後期2回、各35点満点)	
<b>教科書</b>	プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	前期：深井雅海『江戸城』中公新書、2008年 後期：藤田覚『泰平のしくみ』岩波書店、2012年 ほか適宜指示をする			
<b>学生への要望</b>	予習復習を行い、問題関心・探究心をもって授業に出席すること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅳ時間目。創学館4階、No.4研究室			
<b>自学自習</b>	事前学修：配布史料の読解、課題に関する調査(1時間) 事後学修：授業内容及び史料内容の復習(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	江戸城の構成と本丸御殿	江戸城の歴史と構成、江戸城の中心であった本丸御殿の概要を紹介し、本丸御殿への登城について説明する
2	儀式・政治空間「表」	本丸御殿の「表」で行われる、将軍との関係を表徴する殿中儀礼について考える。
3	儀式・政治空間「表」	本丸御殿の「表」で行われる、将軍との関係を表徴する殿中儀礼について考える。
4	儀式・政治空間「表」	本丸御殿の「表」で行われる、将軍との関係を表徴する殿中儀礼について考える。
5	儀式・政治空間「表」	本丸御殿の「表」の構造から、江戸幕府の職制や江戸城に登城する役人の詰所を検証し、政治の仕組みについて学ぶ。
6	儀式・政治空間「表」	本丸御殿の「表」の構造から、江戸幕府の職制や江戸城に登城する役人の詰所を検証し、政治の仕組みについて学ぶ。
7	儀式・政治空間「表」	本丸御殿の「表」の構造から、江戸幕府の職制や江戸城に登城する役人の詰所を検証し、政治の仕組みについて学ぶ。
8	将軍の執務・生活空間「奥」(1)	将軍の執務・生活空間は一般的に「中奥」と呼ばれるが、幕府の日記には「奥」と記されている。いつからそう呼ばれるようになったのか、そして「奥」の構造から将軍の生活について探る。
9	将軍の執務・生活空間「奥」(2)	将軍の執務・生活空間は一般的に「中奥」と呼ばれるが、幕府の日記には「奥」と記されている。いつからそう呼ばれるようになったのか、そして「奥」の構造から将軍の生活について探る。
10	将軍の執務・生活空間「奥」(3)	将軍の執務・生活空間である「奥」だが、将軍やその側近が政治の主導権を握っている場合には奥が政治の舞台となる「奥政治」が展開された。その実態について検証する。
11	将軍の執務・生活空間「奥」(4)	将軍の執務・生活空間である「奥」だが、将軍やその側近が政治の主導権を握っている場合には奥が政治の舞台となる「奥政治」が展開された。その実態について検証する。
12	女性たちの生活空間「大奥」(1)	「大奥」の構造と将軍の寢室・御台所の生活空間について学び、「大奥」の役割について考える。
13	女性たちの生活空間「大奥」(2)	「大奥」の構造と将軍の寢室・御台所の生活空間について学び、「大奥」の役割について考える。
14	女性たちの生活空間「大奥」(3)	「大奥」における大奥女中の生活と、大奥勤務の男性役人が詰めた広敷について探る。
15	江戸時代における江戸城	江戸時代において政治の舞台となった本丸御殿のもつ役割について総括する。
16	泰平の世とは	江戸時代は約270年間、天下の泰平と政治の安定が続いたのか。江戸時代とどのような時代であったのかを概説し、授業計画を説明する。
17	請負と入札のしくみ(1)	江戸時代の請負と入札制度を説明し、土木・建築などをはじめとする入札の方法について探る。
18	請負と入札のしくみ(2)	競争入札や治水工事の入札などを中心に、入札制の広がりや江戸時代の入札制について考える。
19	請負と入札のしくみ(3)	入札による請負の一般化され入札制のしくみが整っていくが、それに伴い引き起こされた諸問題について入札制導入の背景などを検証する。
20	請負と入札のしくみ(4)	入札制導入により引き起こされた問題点(入札と賄賂横行・談合・手抜き工事)と幕府御用の請負などについて学ぶ。
21	幕府の政策と民間の献策(1)	元禄時代頃から、請願、陳情の形式をとる民間からの「献策」が増加する。その、民間「献策」の禁止と許可について考える。
22	幕府の政策と民間の献策(2)	幕府への願い事や政策提案を訴える受け皿であった目安箱が享保期に設置された。また、「直訴」や「訴願」なども行われた。民間「献策」と幕府行政のかかわりについて考える。
23	紛争解決の作法(1)	江戸幕府は政治権力として様々な利害対立と紛争解決を求められ、実行してきた。その方法について実例をもとに探る。
24	紛争解決の作法(2)	江戸幕府は政治権力として様々な利害対立と紛争解決を求められ、実行してきた。その方法について実例をもとに探る。
25	政治と根回し(1)	現代日本の政治や社会において「根回し」は重要な意味をもつ。江戸時代でも同様であった。その当時の政治社会における「根回し」から決定までの筋道について検証する。
26	政治と根回し(2)	現代日本の政治や社会において「根回し」は重要な意味をもつ。江戸時代でも同様であった。その当時の政治社会における「根回し」から決定までの筋道について検証する。
27	町奉行所の行政(1)	天保改革期を中心に町奉行遠山景元の行動と考え方から、当時の幕府行政、町奉行所の行政を考える。
28	町奉行所の行政(2)	天保改革期を中心に町奉行遠山景元の行動と考え方から、当時の幕府行政、町奉行所の行政を考える。
29	町奉行所の行政(3)	天保改革期を中心に町奉行遠山景元の行動と考え方から、当時の幕府行政、町奉行所の行政を考える。
30	江戸時代のしくみについて	江戸時代に整われた政治・社会のしくみから、長期にわたり泰平の世が続いた理由について総括する。

<b>科目名</b>	日本近代の歴史と文化		
<b>担当教員</b>	野沢 謙治、佐藤 愛未	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>前期担当：佐藤担当分「授業概要」 お雇い外国人である、ドイツ人外交官のオットマル・フォン・モールは明治20(1887)年に来日し、東京の宮内省の顧問になり、ヨーロッパの宮廷儀式を導入した人物である。明治天皇の宮中に勤務した際の記録には、モール自身の仕事の他にも明治20年代の文明開化の諸相が、宮中のみならず日本各地の景色や風俗を交えてきめ細やかに描かれている。その記録から明治政府の文明開化政策とモールが描く日本文化について考える。モールの記録から明治20年代における宮中や日本各地の文明開化の諸相と彼からみた日本文化について講義する。</p> <p>後期担当：野沢担当分「授業概要」 近代化の中で日本人の暮らしがどのように変化していったかを考える。その場合の変化とは日々、起きては消えていく新聞の社会面の記事のことであり、世相といわれるものである。この世相の変化から近代史の再構成を行ったのが柳田国男であり、それは『明治大正史世相篇』である。殊に注意したいのは柳田国男が感覚や心意の変化をとりあげていることである。社会の変動を日常の変化とその感覚の変化という側面から考えているのである。歴史の変化は身の回りの感覚をふくめた小さな変化から起こっていることを学ぶことにする。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>前期担当：佐藤担当分「達成目標」 現在の日本における暮らしについて明治の文明開化が契機となっていることを理解する。 外国人からみた日本文化の評価から、日本独自の文化について再認識する。</p> <p>後期担当：野沢担当分「達成目標」 近代化は日本歴史上の大転換期にあたるが、その場合取り上げられるのは政治的事件や経済改革、そして思想上の出来事などの大きな歴史的出来事である。しかし授業では、その歴史の変化を世相という日常の生活、しかも微妙な感覚の変化をふくめたものとしてとらえることである。そこから浮かび上がるのは人間の無意識をふくめた深い歴史の変化であり、歴史の表層と深層をふくめた歴史の変革を知ることができる。</p>		
<b>受講資格</b>	専攻科1年生	<b>成績評価 方法</b>	レポート 佐藤50点、野沢50点の100点満点で評価。
<b>教科書</b>	佐藤はプリントを随時配布する。 野澤は柳田国男『明治大正史世相篇』（講談社学術文庫 2007年）を使用。		
<b>参考書</b>	佐藤はオットマル・フォン・モール『ドイツ貴族の明治宮廷記』（講談社学術文庫、2011年） 野澤は適宜、指示する。		
<b>学生への要望</b>	佐藤は問題意識・目的意識や興味関心を持ち受講することを望む。また事前学修、事後学修に各1時間をとること。 野澤は教科書を使用するので、あらかじめ指定されたところをよく読んでおくこと（1時間くらい時間をかける）、そして授業をふまえて、その内容をまとめておくこと。		
<b>オフィスタイム</b>	佐藤は火曜日以外、随時。創学館4階、No.4研究室 野澤は金曜日IVコマ 創学館4階No.5研究室		
<b>自学自習</b>	野澤は教科書を、佐藤はプリントを使用するので、あらかじめ読み不明な歴史用語は調べて置くこと。翌週の授業には質問の時間を設けるので前回の授業で不明なところはまとめておき質問すること。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方(ガイダンス)	オットマル・フォン・モールが日本に招かれた背景や来日当時の政治・社会情勢などについて解説する。また、授業計画などの説明を行う。
2	宮中の様子(1)	モールの日本到着前後における印象について考え、彼の記録から当時の宮中の様子を検証する。
3	宮中の様子(2)	宮中では洋式宮中宴会が開かれることが多々ある。外国からの賓客をもてなすため導入された、宮中の食事や作法における西洋化について考える。
4	宮中の様子(3)	日本には古代より中国の位階、爵位を模範としていた。しかし、明治維新をむかえ、西洋式も取り入れられる。日本独自の爵位と華族の称号について検証する。
5	宮中の様子(4)	宮中にはさまざまな行事が存在する。その行事にも西洋文化が取り入れられることが多々見られた。そのことについて参加した、モールはどのように感じとったのか探る。
6	宮中の様子(5)	日本にも明治20年代になると西洋建築の建物が立ち並ぶようになる。これらの建築と内装についてモールの視点から当時の様子を検証する。
7	宮中の様子(6)	当時の日本において、内外人と応接する宮廷人の衣裳問題は政治問題であった。そのため、政府はモールに期待するが、彼は日本の民族衣装を尊重する発言をした。この問題から当時の洋装の重要性について考える。
8	宮中の様子(7)	モールが当時直視した宮中における明治政府が推進した西洋化の様子、また、その諸問題について、総括する。
9	日本各地の様子(1)～東京～	来日した直後、また生活の中で触れた東京の様子から、当時の文明開化について考える。
10	日本各地の様子(2)～神戸・大坂・奈良～	モールは京都の情報収集のため、関西に旅行にでた。その際合わせて赴いた、当時の神戸・大坂・奈良の様子を文明開化の影響やそれぞれの歴史と共に検証する。
11	日本各地の様子(3)～京都～	京都において京都御所をはじめとした西洋とは異なる美術・建築・風景にモールは感銘を受ける。彼が思案した京都という空間と文化について考える。
12	日本各地の様子(4)～滋賀・名古屋・静岡～	関西旅行の帰路で立ち寄った滋賀・名古屋・静岡・箱根の記録では、日本の風景や自然とあわせて、交通に関する様子なども描かれている。当時の交通整備の様子などについて考える。
13	日本各地の様子(5)～箱根～	モールは日本滞在中に何度か箱根を訪れており、記録には富士登山や芦ノ湖周辺などの様子が詳細に描写されている。現在も観光地として有名な箱根周辺の当時の様子について紹介する。
14	日本各地の様子(6)～日光・福島～	当時の日光は、鉄道で赴くことができ近代的なホテルがある避暑地として人気であった。モールは立ち寄った日光東照宮において深い感銘を受ける。また、彼は福島にも訪れ噴火直後の磐梯山登山を行っている。その様子について紹介する。
15	まとめ	モールが日本で触れた文明開化の様子と日本独自の文化、また景色について、彼の視点・思考から統括する。
16	『明治大正史世相篇』について	柳田国男の『明治大正史世相篇』は1930年代という時代の変わり目で書かれたこと、また柳田の独特な近代化論、つまり、従来と異なる歴史観から書かれていることをあきらかにします。
17	新色音論1	近代化の中で色は染料によって豊かになった。いいかえれば近代化は色の解放をもたらした。それはいいかえれば聖なる色を染めることを禁じていた禁色の禁忌が近代化の中でなくなってしまったということである。
18	新色音論2	近代化の中で今までに体験したことがない音が暮らしの中に満ち溢れてきた。このような雑音と騒音の中で新しい音を発見すると同時に耳をすますという本来の音の感覚が弱まった。



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	食物の個人化	近代化にともなう新しい食物の流入、外食の普及、そして小鍋立て料理の自由などから共食の慣行が個の食に変化することになった。個を結びつける共食の衰退である。
20	酒の飲み方	酒は本来、一時に造り、皆で一氣に飲み酔い、その酩酊の中で神と交わり、人びとの絆を強めた。近代化にともない酒は自由にいつでも好きな時に飲めるようになった。伝統的な酒の飲み方は意味を失ってしまった。
21	風光の推移 1	近代化にともなう風光・風景の変化を山、海、峠、動物などから考える。山にダムができ、海に汽船が動き、村に瓦の屋根ができることで日本人の風景見方が変わって行った。
22	風光の推移 2	近代化は都市に新しい風景を生み出した。工場、鉄道、電気（明り）、ビルなど近代を象徴する人工物は拒否されることなく日本人の風景を変えて行った。
23	家の住心地 1	近代化にともない家・民家のあり方も大きく変化した。間取りという家の空間の面で考えると広い空間は仕切られることになり、個別のヘヤができ、そこに個人主義が生まれることになる。
24	家の住心地 2	電気の明り、ガラスの普及は暗かった民家を明るくした。暮らしの空間が明るくなると白いきれいな茶碗が普及し、清潔への意識を発達させることになる。
25	恋愛と結婚	近代化にともない若い男女の恋愛、そして結婚は村などの共同体の規制を受けることがなくなった。しかし、一方で個人に全てがゆだねられることで仲人の重視や悲しい心中事件が起きることにもなった。
26	新交通	近代化にともなう新交通体系の特徴は中間カットの交通である。都市などの拠点を結ぶ交通のあり方である。その結果、物と情報は人と土地から離れ一極集中が起きる。
27	生産と商業	近代化にともなう産業化は産業化以前の生産と商業のあり方を変えることになる。その変化の具体相を内職、農業、漁業、そして生産過剰などから考える。
28	労働	近代化は労働力、労働力の編成の仕方を大きく変化させた。出稼ぎ労働、女性の労働、職業婦人、親方制度などから近代労働の特徴とあらたなる労働問題の発生を考える。
29	伴を慕う心	近代化にともない人々は次第に古い紐帯や規制から自由になったが、逆に孤立という貧苦が発生することになる。この孤立に立ち向かうには今までとは違った新しい伴が必要になる。
30	家の永続	家の永続を願う日本人の考え方の中に過去の人々を現在の人々に、そして現在の人々を未来につなげる意味があった。このような考えは近代化にともなう家の弱体化（家の移動、家族の分散、職業の分解など）で無くなってしまふ。

平成29年度

<b>科目名</b>	考古学特論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	会田 容弘		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	先史時代における考古資料を用いた人間行動の復元研究の方法を理解することが目標である。具体的な研究例として宮城県東松島市里浜貝塚の調査成果を用いる。		
<b>達成目標</b>	＜到達目標＞貝塚出土資料分析の過程を理解し、実践的な調査を行うに十分な知識をもつレベルに到達すること。		
<b>受講資格</b>	考古学の基本理解があること	<b>成績評価 方法</b>	レポートと授業への主体的参加度合を加味して評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とするが、考古学で論文を作成する学生には80%以上の授業理解を求める。
<b>教科書</b>	授業中に紹介する		
<b>参考書</b>	里浜貝塚Ⅰ～Ⅹ 東北歴史博物館 里浜貝塚－平成9～12年度発掘調査概報－『松島湾の縄文カレンダー 里浜貝塚』		
<b>学生への要望</b>	予習・復習を行うこと。ノートをまとめておくこと。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。 時間がある限り対応するが、論文に関する質問については事前にメールでアポをとり、質問内容を知らせること。		
<b>自学自習</b>	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の参考文献を読んでおくこと。（1時間） 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。（1時間）		

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	里浜貝塚の位置と環境	里浜貝塚の位置と環境、周辺遺跡について。
2	里浜貝塚研究史	里浜貝塚の研究の歴史。
3	里浜貝塚の発掘（1）	里浜貝塚里・西畑・寺下圃地点の調査結果
4	里浜貝塚の発掘（2）	里浜貝塚台圃地点の発掘調査。
5	里浜貝塚の発掘（3）	里浜貝塚畑中・梨木地点の発掘調査。
6	里浜環境史	泥炭層の植物遺体、花粉化石の分析による周辺環境の変遷史。
7	縄文時代の前期・中期の里	縄文時代の前期・中期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。
8	縄文時代後期の里浜	縄文時代後期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。
9	縄文時代晩期、弥生時代の里浜貝塚	縄文時代晩期、弥生時代初等の集落、墓城、貝塚、製塩炉、浜辺の利用のありかた。
10	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業（1）	漁労活動。猟具と対象魚。採集対象魚。
11	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業（2）	狩猟対象鳥獣と狩猟具。
12	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業（3）	採集対象植物と植物加工具
13	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業（4）	漁労具の素材調達と製作技術
14	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業（5）	狩猟具の素材調達と製作技術
15	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業（6）	植物加工具の素材調達と製作技術
16	里浜貝塚の発掘（5）	里浜貝塚の平成8年度の発掘調査の成果と課題。
17	里浜貝塚の発掘（6）	里浜貝塚平成9年の発掘調査の成果と課題。
18	里浜貝塚の発掘（7）	里浜貝塚の平成10年発掘調査の成果と課題。
19	里浜貝塚の発掘（8）	里浜貝塚の平成11年発掘調査の成果と課題。
20	里浜の集落構成（1）	縄文前期里浜集落の遺跡構成と生業
21	里浜の集落構成（2）	縄文中期前半の里浜集落の遺跡構成と生業
22	里浜の集落構成（3）	縄文中期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物
23	里浜の集落構成（4）	縄文後期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物
24	里浜の集落構成（5）	縄文後期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（1）
25	里浜の集落構成（6）	縄文後期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（2）
26	里浜の集落構成（7）	縄文後期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（3）
27	里浜の集落構成（8）	縄文晩期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（1）
28	里浜の集落構成（9）	縄文晩期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（2）
29	里浜の集落構成（10）	縄文晩期後半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物
30	里浜の集落構成（11）	弥生時代前期の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（1）

平成29年度

<b>科目名</b>	日本の考古学	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	会田 容弘		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	考古資料の基本的な操作方法を理解することが目標である。会津若松市笹山原遺跡16の発掘調査実習を通して発掘方法を理解する。次に出土資料を持ち帰り、資料化の過程を理解する。		
<b>達成目標</b>	＜到達目標＞発掘調査で出土した資料を考古学研究の資料としてりようできるまで整理できる能力を身に着けるレベルまで到達すること		
<b>受講資格</b>	考古学の基本理解があること	<b>成績評価 方法</b>	レポートと授業への主体的参加度を評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。考古学論文を作成する学生は80%以上の理解を求める。
<b>教科書</b>	『発掘調査のてびき』		
<b>参考書</b>	文化学科（資格課程）報告集第4～19集		
<b>学生への要望</b>	考古学実習発掘に参加すること。この授業は実習作業が中心になる。資料を配布するので事前にそれを読み、確認しておくことが予習である。授業後、授業内容をノートに作成し復習すること。特に実測図の作成は授業時間で完成できない場合はあき時間に完成させること。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。 時間がある限り、対応するが論文作成に関する質問は事前にアボをとり、質問内容を知らせること。メールの質問も可。		
<b>自学自習</b>	予習：前回の講義内容を確認し、教科書の授業内容を読んでおくこと。（1時間） 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	笹山原遺跡16の調査経過	会津若松市笹山原遺跡16のこれまでの発掘調査の経過を説明する。
2	笹山原遺跡16の調査方法	笹山原遺跡16の発掘調査方法について説明を行い、実際に調査を行う準備を行う。
3	笹山原遺跡群の研究成果	これまでの笹山原遺跡群の調査成果をまとめ、その意義と今後の課題について検討する。
4	笹山原遺跡16の発掘資料整理(1)	発掘調査で得られた資料の整理作業。水洗作業が中心となる。
5	笹山原遺跡16の発掘資料整理(2)	発掘資料のネーミング作業。
6	笹山原遺跡16の発掘資料整理(3)	出土土器の接合作業。
7	笹山原遺跡16の発掘資料整理(4)	出土土器の復元作業。
8	笹山原遺跡16の発掘資料整理(5)	調査記録、図面などの整理作業。
9	笹山原遺跡16の発掘資料整理(6)	遺跡管理システムの利用方法及び操作法。
10	笹山原遺跡16の発掘資料整理(7)	遺跡管理システムの操作。
11	笹山原遺跡16の発掘資料整理(8)	遺跡管理システムの操作。
12	笹山原遺跡16の発掘資料整理(9)	遺跡管理システムを用いた図面出力。
13	笹山原遺跡16の発掘資料整理(10)	遺跡管理システムを用いた遺物分布図の作成。
14	笹山原遺跡16の発掘資料整理(11)	石器母岩別分類の方法と実践
15	笹山原遺跡16の発掘資料整理(12)	石器接合の方法と実践
16	石器実測の方法	石の割れの原理を説明し、石器の実測方法について説明を行う。
17	石器実測(1)	実験で製作した剥片の実測を行う。
18	石器実測(2)	笹山原No.16遺跡から出土した後期旧石器を資料として実測を行う。
19	石器実測(3)	笹山原No.16遺跡から出土した石核を用いて実測を行う。
20	石器実測(4)	笹山原No.16遺跡から出土した石器を用いて、実測を行う。
21	接合資料の理解	笹山原No.16遺跡から出土した石器の中に、接合資料が含まれている。この接合資料を用いて、笹山原No.16遺跡で行われた、石器製作技術理解の方法を述べる。
22	石器属性分析の方法	石器を記述するために属性を抽出し、記述する。その方法を学ぶ。
23	石器属性計測実習	石器の属性を実際に計測し、抽出する。
24	石器属性分析の実際	抽出した属性をEXCELに入力し、属性分析を行う。
25	石器写真撮影	笹山原No.16遺跡出土の石器の写真撮影実習。
26	報告書製作1	実測図のトレース、分布図の作成、属性表、調査内容の記述などの説明を行う。
27	報告書製作2	実測した石器のトレースを行い、版下のレイアウトを行う。
28	報告書製作3	分布図を作成し、石器の出土位置を合成する。母岩別分布図を作成する。それらをトレースし、版下を作成する。
29	報告書製作4	遺構実測図の合成し、トレースを行い、遺構図面の版下を作成する。
30	報告書製作5	報告書の体裁及び章立てなどの説明を行い、文章を実際に書いてみる。

<b>科目名</b>	中国の歴史と文化		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	渡部 東一郎			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 中国古代から近現代に至る、様々な思想やその歴史的展開を学ぶことを通して、日本はもちろん、東アジア諸国の文化や社会の形成に多大な影響を及ぼしてきた中国文化について理解を深めるとともに、自ら思考する力、複眼的なものの見方を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 中国古代から近現代に至る、様々な思想やその歴史的展開について概観していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ①中国における様々な思想やその歴史的展開について知見を深める。 ②自ら思考すること、複眼的なものの見方ができる。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 中国古代から近現代に至る、様々な思想やその歴史的展開を学ぶことを通して、日本はもちろん、東アジア諸国の文化や社会の形成に多大な影響を及ぼしてきた中国文化について理解を深めるとともに、自ら思考する力、複眼的なものの見方を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 中国古代から近現代に至る、様々な思想やその歴史的展開について概観していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ①中国における様々な思想やその歴史的展開について知見を深める。 ②自ら思考すること、複眼的なものの見方ができる。</p>			
<b>受講資格</b>	専攻科 文化学専攻 1年	<b>成績評価 方法</b>	①前期・後期のレポート：各40点 ②出席・受講態度：20点	
<b>教科書</b>	[教科書] 湯浅邦弘 編著『概説 中国思想史』（ミネルヴァ書房 3,240円）			
<b>参考書</b>	[参考書] 授業内で必要に応じて指示する。			
<b>学生への要望</b>	「学んだ上で自ら考える」積極的な姿で受講してほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日4限の教務部非常勤控室など。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の目標と流れについて説明する。
2	第1章 春秋戦国時代・秦代	1. 諸子百家の時代 2. 儒家と墨家：「顕学」の思想集団
3	第1章 春秋戦国時代・秦代	2. 儒家と墨家：「顕学」の思想集団(続き)
4	第1章 春秋戦国時代・秦代	3. 道家：文明批判と本源の追求
5	第1章 春秋戦国時代・秦代	3. 道家：文明批判と本源の追求(続き)
6	第1章 春秋戦国時代・秦代	4. 思想家群像：陰陽家・名家・兵家
7	第1章 春秋戦国時代・秦代	4. 思想家群像：陰陽家・名家・兵家(続き)
8	第1章 春秋戦国時代・秦代	5. 法家と秦帝国：法治体制の提唱
9	第2章 前漢	1. 草創期の模索 2. 儒教国教化
10	第2章 前漢	2. 儒教国教化(続き) 3. 儒教統制下の諸問題
11	第2章 前漢	3. 儒教統制下の諸問題(続き)
12	第3章 後漢	1. 後漢の復興と儒教 2. 経学の総合化
13	第3章 後漢	2. 経学の総合化(続き) 3. 批判精神の系譜
14	第3章 後漢	3. 批判精神の系譜(続き) 4. 後漢の衰退と諸思想
15	第3章 後漢	4. 後漢の衰退と諸思想(続き)
16	第4章 魏晋南北朝・隋唐	1. 「貴無」、「崇有」：魏晋時代の思想
17	第4章 魏晋南北朝・隋唐	2. 「玄儒文史」と仏教・道教：東晋・南北朝時代の思想
18	第4章 魏晋南北朝・隋唐	3. 儒仏道三教の鼎立：隋唐時代の思想 4. 魏晋南北朝・隋唐時代の科学技術と思想
19	第5章 宋代	1. 近世の始まり 2. 儒教の復興 3. 儒教の発展 4. 仏教と道教の展開：禪宗、玉皇大帝、『悟真篇』
20	第5章 宋代	5. 朱子学の成立
21	第5章 宋代	5. 朱子学の成立(続き)
22	第5章 宋代	6. 南宋儒教の展開：思想家列伝
23	第6章 元代	1. 元朝という多民族国家 2. 許衡による朱子学の復興
24	第6章 元代	3. 呉澄による朱子学と陸学の折衷 4. 許衡と呉澄に対する後世の評価
25	第7章 明代	1. 明初の経学と性理学：朱子学の官学化 2. 陽明学の成立：「良知学」の世界
26	第7章 明代	3. 陽明学派の思想家たち：講学活動の隆盛 4. 「三教一致」と明末の諸思想
27	第8章 清代	1. 清初の社会と思想 2. 考証学の世界
28	第8章 清代	3. 漢宋の対立から調和へ 4. 清末の思想：「漢学」から「国学」へ
29	第9章 近現代	1. 西洋の衝撃 2. 儒教の再解釈と進化
30	第9章 近現代	3. 東アジアにおける「知」の連鎖 4. 共和国の希求 5. 新文化運動とマルクス主義の受容

<b>科目名</b>	西洋美学史		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	斎藤 美保子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	【授業の目的・ねらい】 古代から19世紀までの西洋美学史の基本を理解する。 【授業内容の概要】 小田部胤久著『西洋美学史』を輪読し、古代ギリシアから19世紀末までの西洋の美学を学習する。折々に、学生の学位授与機構提出レポートのテーマに関連づけて、美について議論する。			
<b>達成目標</b>	【授業終了時の達成目標】 ①西洋美学の大きな流れを歴史的に理解する。 ②西洋美学の概念、用語、及び、美学者について基礎的な知識を定着させる。 ③美学的な視点で歴史を考える。			
<b>受講資格</b>	専攻科2年生	<b>成績評価 方法</b>	授業中の輪読と質疑応答(30点)、レポート「各自の美学的問題」(30点)、論述式の期末試験(40点)。60点以上が合格だが、目標は80点以上。	
<b>教科書</b>	小田部胤久著『西洋美学史』東京大学出版会			
<b>参考書</b>	掛下栄一郎著『美学要説』(研究室蔵) その他、授業内で指示する			
<b>学生への要望</b>	精読する力を付け積極的に議論すると共に、論理的な文章をまとめるように心がけること。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜V 木曜V No5研究室			
<b>自学自習</b>	予習:教科書を読み、専門用語、固有名詞を調べておくこと。質問内容をまとめておくこと。(1時間) 復習:新たに理解した言葉や概念をノートに整理し、更なる課題について考えること。(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	教師と学生の自己紹介。授業の進め方を説明する。
2	学生の学問的関心に関連する美学	学生個々の学問的興味関心と美学を結びつけ、参考文献をリストアップする。
3	ギリシア美術	古代ギリシアから西洋美学史を始める導入として、古代ギリシア美術を概説する。
4	プラトン①	第1章「知識と芸術」を読み、プラトンの美学を理解する。
5	プラトン②	プラトンのイデア論について考察する。
6	アリストテレス①	第2章「芸術と心理」を読み、アリストテレスの美学を理解する。
7	アリストテレス②	アリストテレスのカタルシスについて考察する。
8	プロティヌス①	第3章「内的形相」を読み、プロティヌスの美学を理解する。
9	プロティヌス②	プロティヌスの新プラトン主義について考察する。
10	アウグスティヌス①	第4章「期待と記憶」を読んで、アウグスティヌスの美学を理解する。
11	アウグスティヌス②	自由七芸と聖歌の効用を考察する。
12	トマス・アキナス①	第5章「制作と創造」を読んで、トマス・アキナスの美学を理解する。
13	トマス・アキナス②	ステンド・グラスの効用について考察する。
14	ルネサンス①	『美学要説』第七章「ルネッサンス・レオナルド・ダ・ヴィンチ」を読み、初期ルネサンスの美学を理解する。
15	ルネサンス②	『美学要説』第七章「ルネッサンス・レオナルド・ダ・ヴィンチ」を読み、盛期ルネサンスの美学を理解する。
16	ルネサンス③	遠近法(一点透視)とスファートで表現した<最後の晩餐>の美学を検討する。
17	各自の学位授与機構申請レポートのテーマと美学①	18世紀の美学
18	各自の学位授与機構申請レポートのテーマと美学②	19世紀の美学
19	各自の学位授与機構申請レポートのテーマと美学③	20世紀の美学
20	17世紀①	第6章「含蓄のある表象」を読み、バウムガルテンによる美学の定義、ライプニッツの美学を理解する。
21	17世紀②	第7章「方法と機知」を読み、ヴィーコの美学とバロックについて理解する。
22	18世紀①	第8章「模倣と創造性」を読み、ヤングの美学、特に自然観を理解する。
23	18世紀②	第9章「趣味の基準」を読み、ヤングの美学とロココ様式の関係を理解する。
24	18世紀③	第10章「詩画比較論」を読み、レッシング(1729~1781)の美学を理解する。
25	18世紀④	第11章「自然と芸術I」を読み、カント(1724~1804)の美学を理解する。
26	18世紀⑤	第12章「遊戯と芸術」を読み、シラー(1759~1805)の古典主義の美学を理解する。
27	19世紀①	第13章「批評と作者」を読み、シュレーゲルの初期ロマン主義美学を理解する。
28	19世紀②	第14章「自然と芸術II」を読み、シェリング(1775~1854)の観念論を理解する。
29	19世紀③	第15章「芸術の終焉I」を読み、ロマン主義の頂点を考察する。
30	まとめ	古代ギリシアから20世紀までの西洋の美学史を振り返り、一年間のまとめをする。 期末試験期間中に行う、論述式の試験について説明する。

科目名	日本人の生活史		対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員	野沢 謙治			
開講期	通年			
授業概要	生活とは「衣食住」という言い方に示されるように同じことがくりかえされ、同じものが再生産され、同じように利用され大きく変化しないことである。つまり日常茶飯事というごくあたりまえの暮らしのことである。授業では「冠婚葬祭」という日本人の一生の節目、節目にくりかえされてきた人生儀礼をとりあげながら、その意味を考え、そこから日本人の生き方の価値観を探ることとする。			
達成目標	日本人の一生の節目にくりかえし行なわれてきた人生儀礼・冠婚葬祭を学ぶことによって日本人の生きることの意味を知ることができるようになる。殊に人生儀礼は宗教的要素がとりいれられているため聖俗をとともに生きてきた日本人の特質をしることができる。			
受講資格	専攻科2年	成績評価 方法	レポートを前期に一本、後期に一本提出してもらいます。各50点で100点で評価する。	
教科書	使用しない。発表の資料をあらかじめ渡ししておく。			
参考書	必要に応じ紹介。			
学生への要望	問題意識を常に持ち、身の回りの暮らしに絶えず関心を持ってください。殊に人生儀礼に注意をばらうようにしてください。発表の資料をあらかじめ渡ししておきますので、よく予習しておいてください(1時間ぐらい時間をかけて)。また授業をふまえて、その内容をまとめておくこと(1時間)。			
オフィスタイム	金曜日IVコマ目 創学館4階No.5研究室。			
自学自習	あらかじめ授業で読むペーパーを渡ししておくので時間をかけてよく読んでおくこと。授業の内容は文章化しまとめておくこと。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	老いの民俗1	長寿の民俗をとりあげます。沖縄のカジマヤーの祝い(97歳の祝い)を見ることにします。そこでは長寿を祝うと同時に97歳の年寄りを死の世界に送りこむことが行われます。それ単なる死ではなく再生を意味し、長寿が人を超越することをあらわします。
2	老いの民俗2	88歳、つまり米寿の祝いをとりあげます。さこには米にかかわる数の呪力、そして仏教のミロク信仰をみることでできます。稲作民である日本人の米と年齢の関係を考えます。
3	老いの民俗3	還暦、古希、喜寿、米寿などの長寿の祝いは歳祝いであり、厄を払う意味もあります。またこれらの歳祝いには必ず贈答が行われますが、それは長寿のあやかる、長寿の壺をもらうという意味もあります。
4	老いの民俗4	長寿者の葬式の際に配られる長寿銭、民話の中にみられる若水を飲んで若返る年寄りの話など長寿者の死を積極的に扱い、老いからの若返りに積極的意味を見出すことの背景を考えます。
5	誕生の民俗1	この世に誕生したばかりの赤ん坊は霊的にあの世につながっていました。誕生後の産育儀礼は赤ん坊をこの世の存在にするために行われます。しかも、その儀礼は意図的に境界で行われます。
6	誕生の民俗2	赤ん坊をこの世にもたらした産神はどのような神なのでしょう。殊に出産のケガレを嫌わない産神の特徴は神社に祀られる氏神や家の神とは全く異なるものです。
7	誕生の民俗3	出産の直後に供えられる産飯は赤ん坊に魂を付着するために行われます。あの世の存在である赤ん坊が人間として認められるには身体の成長と同時に魂も必要であったのです。
8	誕生の民俗4	出産のための産小屋は出産のケガレを避けるために作られたといわれてきました。しかし、そこには新しい生命の誕生にともなう神秘性や産婦へのやさしい心遣いもみられます。
9	育児の民俗1	産祝い、セツチン参り、宮参り、食い初め、初節句、初誕生などの儀礼から子どもがどのようにして社会に受け入れられていくかを考えます。殊に魂の強化と贈答関係に注目します。
10	育児の民俗2	七五三、七つ子参りなど七歳の頃に多様な儀礼が行われます。それは七歳の頃が子どもから大人への第一段階とみなされていたからです。七歳の社会的意味と宗教的意味を考えます。
11	成人の民俗1	成人儀礼の歴史を古代の天皇、貴族、中世と近世の武家儀礼から概観するとともに、それらの儀礼が庶民の成人儀礼にどのような影響をあたえたかを考えます。
12	成人の民俗2	成人儀礼の中に袴着やフンドシ祝い、腰巻祝いなど身体にあらたに着物や飾りをつけることがあります。これは身体装飾の成人儀礼であり、性差を明確にする意味がありました。
13	成人の民俗3	お歯黒(カネツケ)も身体装飾の成人儀礼です。十五カネは15歳の時に歯を黒く染めることです。お歯黒は女性のみに行われ、結婚式よりも派手に行われました。
14	成人の民俗4	13歳の時に虚空菩薩に参る十三参りは13歳が厄であることと仏教が習合して生まれた成人儀礼です。しかも、子どもにとって初めての旅の経験でもありました。子どもは初めて世間を知るのです。
15	成人民俗5	一人前とは大人として決められた労働量や仕事量ことであり、これをこなすことが社会で大人として認められることでした。機械化以前の社会では労働を交換して共同労働をしなければ社会は維持できなかったのです。
16	結婚の民俗1	ヨバイは前婚約の自由交渉といい若者組や娘組の存在があって初めて可能でありました。また自由恋愛も若者組や娘組の存在が必要でした。若者組と娘組が結婚を媒介する上で大切な役割を果たしていたのです。
17	結婚の民俗2	日本における古い結婚形態は婿入り婚でした。婿が嫁方に来ることによって結婚が成立し、それからしばらくの間、婿は妻訪いをし、それから嫁の婿方への引き移りが行われるのです。一時的な妻訪いであり、母系制とは関係ありません。
18	結婚の民俗3	婿入り婚の後に生まれたのが嫁入り婚であり、式と同時に嫁は婿方に引き移ります。これは婿入り婚のように妻訪いができなくなったために生まれた結婚形態と考えられます。しかし、文化の系統の違いからの説明が可能かもしれません。
19	結婚の民俗4	嫁入りの際、火を燃やしたり、火をまたぐ儀礼がみられます。それは境界を越える花嫁の危機的状況を象徴的にクリアする意味があるのではないかと考えられています。また歴史的に遡ると渡来系の人々や武士の世界でうまれたとも考えられています。
20	結婚の民俗5	三々九度の盃、披露、実家帰り、水祝儀などの儀礼から嫁と嫁の実家との関係、婿と未婚の若者との関係を考えてと同時に新夫婦がどのようにして社会的承認を得ていくのかを考えます。
21	死の民俗1	死の直後、死者の名を呼ぶ魂呼びが行われました。これは死によって身体を離れた魂を呼び戻し再生を願う意味があります。つまり死と生の区別が魂の動きと密接に関係していたのです。
22	死の民俗2	死者の傍らに寄り添い、飲み食いをしたり、死者を何日間も見に行ったりすることは、古代に見られたモガリの風習の名残りとみなされています。つまり、死者の再生を願った儀礼なのです。死の決定の意味を考えます。
23	死の民俗3	北枕、刃物を死体の上に置くこと、猫が死体をまたがないようにすることなどには死者への恐怖と別の魂が死体に入ることへの不安がみられます。生から死への移行は大変な危機の状況であるという考えがみられます。
24	死の民俗4	仮死状態での体験を臨死体験といいます。その背景には死後の魂の移動が考えられます。しかも、臨死体験には川が流れていたり、花が咲いていたり、先祖がいたりと他界のイメージが色濃く見られますが、注目したいのはそれが生者に語られることです。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	死の民俗 5	死のケガレは伝染すると考えられ、それに対処するためにいろいろな呪術や儀礼が行われました。耳ふたぎ餅やひっぱり餅などはその具体例ですが、このような対処の民俗から死のケガレの本質を考えてみます。
26	死の民俗 6	葬式は組合や講などの地域の互助組織によって行われました。この互助組織は葬家を助ける経済的意味がありましたが、同時に死への対処という呪術的意味や死の社会的確認などの意味もありました。
27	死の民俗 7	死後の死者供養は魂に対して行われます。四十九日、彼岸、盆、正月などに行われる死者供養などを経ることによって死者の魂は清浄となり、個性を失っていくのです。
28	先祖祭祀 1	日本の先祖は個人名ではなく「先祖さん」とわれるように漠然としたものでした。そこには父系、母系という系譜を明確にするという理念的な先祖祭祀をみることができません。
29	先祖祭祀 2	現在、仏壇が先祖祭祀の重要な場になっていますが、かつては仏壇以外にも家の中には先祖を祀る臨時の場がありました。しかも、仏壇はかつて家の外の仏堂であったともいわれています。
30	脳死	臓器の移植にともない脳死があらたに死と認められるようになりました。法律による死の決定です。それは言い換えれば新しい社会的死の決定であります。かつての社会的死がオープンであったことと比較してみます。

平成29年度

<b>科目名</b>	ドイツの歴史と文化		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	桑野 聡			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	ドイツをテーマに、ヨーロッパ地域の生活・文化の特色を歴史学的に考察する。短期大学時代の西洋史概説の知識を踏まえて大学3・4年生らしいゼミ形式での授業方法を取ることで、学生各自の歴史学的基礎力の強化を目指したい。 ドイツ文化圏として中央ヨーロッパ地域の歴史と文化を考察する。今年はチェコ（ボヘミア）の首都プラハの歴史を手掛かりに、中央ヨーロッパ文化圏の形成とドイツ文化との関係性などに考察を加える。具体的には、薩摩秀登『物語 チェコの歴史』をテキストに、用語の暗記を目的とした学習ではなく、実証と理論を重視する基本姿勢も習得に努める。			
<b>達成目標</b>	テキストを読み解く思考力と討論する力を身につける。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	毎回の講読と議論（100%）	
<b>教科書</b>	薩摩秀登『物語 チェコの歴史―森と高原と古城の国』中公新書 2006年			
<b>参考書</b>	授業中に適宜提示する。			
<b>学生への要望</b>	きちんとテキストを読み込み、授業時の議論に積極的に参加する姿勢を求めます。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日・水曜日 Ⅱ限（10:30～12:00） 考古学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習： テキストの事前読み込みと用語の確認（1時間） 学習： 内容の要約と読み直し（1時間）			事後

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本授業の計画を確認する
2	プロローグ①	チェコと都市プラハの歴史を概観する。
3	プロローグ②	プラハに関する視覚教材を鑑賞し、これから扱う対象のイメージを膨らませる。
4	プロローグ③	テキストの著者の確認と「まえがき」「あとがき」の確認を行い、テキストの概要と学術研究における位置づけを確認する。
5	講読 1-①	第1章「幻のキリスト教国モラヴィア」を講読する
6	講読 1-②	第1章「幻のキリスト教国モラヴィア」を講読する
7	講読 2-①	第2章「王家のために生きた聖女」を講読する
8	講読 2-②	第2章「王家のために生きた聖女」を講読する
9	講読 3-①	第3章「皇帝の住む都として」を講読する
10	講読 3-②	第3章「皇帝の住む都として」を講読する
11	講読 3-③	第3章「皇帝の住む都として」を講読する
12	講読 4-①	第4章「「異端者」から「民族の英雄」へ」を講読
13	講読 4-②	第4章「「異端者」から「民族の英雄」へ」を講読
14	講読 5-①	第5章「貴族たちの栄華」を講読する
15	講読 5-②	第5章「貴族たちの栄華」を講読する
16	後期ガイダンス	後期の授業の進め方を確認する
17	講読 6-①	第6章「書籍づくりに捧げた生涯」を講読する
18	講読 6-②	第6章「書籍づくりに捧げた生涯」を講読する
19	講読 7-①	第7章「大学は誰のものか」を講読する
20	講読 7-②	第7章「大学は誰のものか」を講読する
21	講読 8-①	第8章「大作曲家を迎えて」を講読する
22	講読 8-②	第8章「大作曲家を迎えて」を講読する
23	講読 9-①	第9章「博物館に賭けた人々」を講読する
24	講読 9-②	第9章「博物館に賭けた人々」を講読する
25	講読10-①	第10章「「同居」した人々、そしていなくなった人々」を講読する
26	講読10-②	第10章「「同居」した人々、そしていなくなった人々」を講読する
27	討論①	講読を終えてテキストの内容全体について議論する
28	討論②	講読を終えてテキストの内容全体について議論する
29	討論③	講読を終えてテキストの内容全体について議論する
30	まとめ	授業を振り返り、ドイツ文化圏とチェコの間を考える



平成29年度

<b>科目名</b>	フランスの歴史と文化		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	斎藤 美保子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】 ルーヴル美術館の歴史と収蔵品を研究することによって、フランスの歴史と文化の基本事項を理解する。国際的視野を養う一助としてほしい。</p> <p>【授業内容の概要】 ①城塞から世界最大の美術館に至るルーヴルの歴史とその収蔵する名品を、文献とホームページで調査する。②修了生のレポートを参照しながらフランス美術史の個別テーマについて理解を深める。③ルーヴルの名作から靈感を得たサルバドール・ダリのブロンズ作品について検討する。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【授業終了時の達成目標】 ①ルーヴル美術館の成り立ちと所蔵品に関する理解を深める。 ②フランスの歴史と文化、美術に関する基本事項を理解する。</p>			
<b>受講資格</b>	専攻科1年生	<b>成績評価 方法</b>	授業中の輪読と質疑応答(30点)、授業中の報告発表(20点)、レポート(50点) 60点以上で合格だが、80点以上を目標とする	
<b>教科書</b>	斎藤美保子著『プロスペル・メリメの文化財保護活動』(コピーを配布する)			
<b>参考書</b>	授業内で指示する			
<b>学生への要望</b>	<p>輪読で読解力をつけること。 広くフランスの歴史と文化、美術に関心を持つこと。 論理的な議論とレポートの作成を心がけること。 週末や冬休みに時間を見つけて、近隣の美術館の展示を見学すること。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日V 木曜日V No5研究室			
<b>自学自習</b>	<p>事前学修：当日の内容をシラバスと講義資料で確認しておくこと(30分) 事後学修：ノートを整理し、参考文献を読んで理解を定着させる(1時間)</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	教師と学生の自己紹介。 今年度の授業テーマ「ルーヴル美術館の歴史とダリへの影響」の説明。 授業の進め方、成績評価の説明。
2	ルーヴル美術館の歴史 1	城塞から宮殿へ。王家のコレクションの充実を概観する。 アン・スフルウ「宮殿から美術館へ」/『ルーヴル・ガイド』パリ、2005年
3	ルーヴル美術館の歴史 2	フランス革命からナポレオン美術館への推移を概観する
4	ルーヴル美術館の歴史 3	ヴィヴァン・ドゥノンノの活躍と東洋学の勃興を概観する。 トマス・G・H・ジェイムズ「大英博物館古代エジプト・コレクションの歴史」/『大英博物館 古代エジプト展』 東京都美術館、1999年
5	ルーヴル美術館の歴史 4	第二次世界大戦下、作品を守った学芸員の戦いを概観する。
6	ルーヴル美術館の歴史 5	20世紀後半、ガラスのピラミッドに代表される大ルーヴルへの変貌を概観する。
7	ルーヴル美術館の収蔵品 (古代1)	エジプト、メソポタミアの名品を画集とHPで検討する。
8	ルーヴル美術館の収蔵品 (古代2)	古代ギリシアの名品を画集とHPで検討する。
9	ルーヴル美術館の収蔵品 (中世1)	初期キリスト教、ロマネスク様式の名品を画集とHPで検討する。
10	ルーヴル美術館の収蔵品 (中世2)	ゴシック様式、国際ゴシックの名品を画集とHPで検討する。 「プロスペル・メリメの文化財保護活動」輪読①
11	ルーヴル美術館の収蔵品 (盛期ルネサンス)	レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの名作を画集とHPで検討する。 「プロスペル・メリメの文化財保護活動」輪読②
12	ルーヴル美術館の収蔵品 (フロンテヌブロー派)	フランソワ I のルネサンス移入政策とフロンテヌブロー派の作品を検討する。 「プロスペル・メリメの文化財保護活動」輪読③
13	ルーヴル美術館の収蔵品 (バロック)	レンブラント、フェルメール、ルーベンス、ラ・トゥールの名作を画集とHPで検討する。 「プロスペル・メリメの文化財保護活動」輪読④
14	ルーヴル美術館の収蔵品 (ロココ)	ルーヴル美術館収蔵品をスライドで鑑賞する。
15	ルーヴル美術館の収蔵品 (古典主義)	「アングルとダリ」輪読。
16	夏休み課題の発表	夏休みにまとめたレポートの発表
17	歴史小説 1	デュマ作『三銃士』に描かれた絶対主義王政に至る歴史を理解する。
18	歴史小説 2	『三銃士』の映像化作品を検討する。
19	歴史小説 3	デュマ・フィス『椿姫』に描かれた時代背景を理解する。
20	修了生のレポート 1	1期生「ロココ様式におけるシノワズリー」 2期生「フランスの都市と大聖堂について」 3期生「日本で見られるモネの絵画-この100年の蒐集成果-」
21	修了生のレポート 2	5期生「スペインの画家ゴヤとフランス」 9期生「聖ミカエルの美術史-出現からカトリック絵画まで-」 10期生「ルドゥーテの蓄積」 その経緯を明らかにする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	修士生のレポート3	11期生「フローラの美術史」 13期生「ネコの描かれた西洋美術の変遷」
23	諸橋近代美術館のブロンズ像1	《ひき出しのあるミロのヴィーナス》《リリスとサモトラケのニケの二重像》の作品分析をする。 スペインのシュルレアリスムの美術家、サルバドール・ダリ（1904-89）の生涯をまとめる。
24	諸橋近代美術館のブロンズ像2	《聖ゲオルギウスと龍》《ユニコーン》の作品分析をする。 ダリは美術書等でルーヴル所蔵作品に精通した上で、ルーヴルを訪ねた。その経緯を明らかにする。
25	諸橋近代美術館のブロンズ像3	《ミシュランの奴隷》の作品分析をする。サルバドール・ダリが敬愛した美術家をまとめる。
26	諸橋近代美術館の絵画	《テトゥアンの会戦》《大胆な試み》等の作品分析をする。 ダリがフェルメール、アンゲルなどデッサンの上手い画家を尊敬し、彼らの絵から再制作したことをまとめる。
27	サルバドール・ダリにおけるルーヴル美術館の影響	サルバドール・ダリの作品におけるルーヴル美術館収蔵品の影響を検討する。
28	オルセー美術館について	オルセー美術館の収蔵品と開設以来の歴史を調査する。
29	美術館、レポートの指示	テーマの設定とレポートの書き方を指示する。
30	まとめとレポートの講評	一年間の授業のまとめをし、提出されたレポートの講評をする。

<b>科目名</b>	アメリカの歴史と文化	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	J・ティルマント		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>現代的な生活様式や考え方はもちろんのこと、今日の西洋文明は長い歴史の発展における成果である。学生には、西洋の特にアメリカの社会や考え方を理解させるために、その文明や思想を生み出した歴史的な事柄についての一般的な知識を解説する。</p> <p>この授業では、今日の日米におけるさまざまな生活様式や文化の違いについて学び、また、社会と文化の意味と定義し、異なった社会における生活様式の違いなどを考察することにより、それらの相違の理由を理解する。各国に共通である人種・民族の多様性・老人・犯罪・経済の不平等といった社会を識別し比較する。</p> <p>また、アメリカの宗教・政治・教育・家庭・社会生活などのトピックを設け、それらについてわかりやすく解説する。</p> <p>Points of class evaluations:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding key differences between American and Japanese political and social development.</li> <li>2. Knowledge and understanding of key points of American culture and social traits.</li> <li>3. Understanding of the back ground to many of the social issues in America today.</li> </ol>		
<b>達成目標</b>	<p>現代的な生活様式や考え方はもちろんのこと、今日の西洋文明は長い歴史の発展における成果である。学生には、西洋の特にアメリカの社会や考え方を理解させるために、その文明や思想を生み出した歴史的な事柄についての一般的な知識を解説する。</p> <p>この授業では、今日の日米におけるさまざまな生活様式や文化の違いについて学び、また、社会と文化の意味と定義し、異なった社会における生活様式の違いなどを考察することにより、それらの相違の理由を理解する。各国に共通である人種・民族の多様性・老人・犯罪・経済の不平等といった社会を識別し比較する。</p> <p>また、アメリカの宗教・政治・教育・家庭・社会生活などのトピックを設け、それらについてわかりやすく解説する。</p> <p>Points of class evaluations:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding key differences between American and Japanese political and social development.</li> <li>2. Knowledge and understanding of key points of American culture and social traits.</li> <li>3. Understanding of the back ground to many of the social issues in America today.</li> </ol>		
<b>受講資格</b>		<b>成績評価方法</b>	合計で100になるように、Papers (60%) class participation (30%) and attendance (10%)
<b>教科書</b>	授業内で参考文献を指示する		
<b>学生への要望</b>	During the first term, we want to try to get an understanding of why American society has the characteristics that it has. Therefore, discussions will center around some of the key events, and historical and theoretical forces, that helped develop current American ideas of freedom, individualism, rights and so forth.		
<b>オフィスタイム</b>	1. 火 4:10-5:30 2. 水 5:40-6:00 3. By appointment or any time I am there.		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction□	
2	Images□	Which America? Which Americans? (1)
3	On individualism - 1□	Historical and geographical forces on individualism (West) and groupism (Asia) / individual and the State / individual and society.
4	On individualism - 2□	Influence of religion on social and political development. Direct faith, human value, right to rule, development of modern democratic ideas.
5	Movement to America□	Post-Protestant Revolution and forces behind the European movement to the Americas. Early American (colonial) political, religious and social thought. Ideas of rights, freedom and independence.
6	Early colonialism□	Video: Scarlet Letter. - a movie portrayal of the reality of religious and social freedoms in colonial America.
7	No Easy Task□	Making of the nation / political system of America (3)
8	The American Mosaic□	Melting pot or vegetable soup? (2)
9	Conflict and Expansion□	Westward movement and expansion of the nation. Influences on the development of individual thought, rights and freedoms.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	American Plenty □	Video documentary on ways in which America's natural and human resources have helped to make it wealthy and therefore an essential part of the world economic leadership.
11	Immigrants□	Outline of American immigration / social and political problems (8)
12	Too Big□	Whose right is right: Issues of American democracy and problems of unity. (7)
13	What is an American □	Video documentary on the histories and social/economic roles of various sub-groups in American society.
14	A Time For Change□	American cultural revolution (4)
15	Wrap-up	授業内試験及び解説.
16	2nd-term introduction	授業内容、評価方法についての説明
17	The Cultural Revolution - 2□	Further comments and review of the American cultural Revolution and the social effects of various movements of the 1960's.
18	Minority Issues□	Historical and current social and political issues for minority groups in American society and the battle for state's rights.
19	Black Movement in America □	Video documentary that looks at the historical struggle for equal social, economic and political rights by American black people.
20	Women in America□	General discussion of the social and political situation of women in America. Women and families, women in the work force, women in politics, etc
21	Women's Lib□	A video documentary that highlights the history of the women's liberation movement and the current situation of women in society.
22	American Youth□	Problems and challenges facing American young people (14)
23	The Breakfast Club □	Video film that expresses perceptions by and inter-action among a diverse group of American youths.
24	Your Future	Discussion on an d comparison of Japanese and American young people.
25	The Right To Bear Arms	Issues of gun ownership, gangs and violence in America. (9)
26	Bowling For Colimbine	Video documentary on the arming of - and efforts to disarm - American society.
27	Holidays In America	Discussion on characteristics of major holidays in America. Holiday system in Japan vs. the vacation system in America.
28	One Nation?□	Political and social divisions in American society / size and demographics (19)
29	From The Past□	Documentary: Texas town of Marshall
30	To The Future□	Discussion of what the future America might look like. (20)

平成29年度

科目名	日本女性史	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	通年		
授業概要	日本の近現代女性史において、様々な分野で道を切り拓いた女性達の活躍が見られるが、その生涯や果たした役割、社会的背景等を考察することにより、現在の私達女性の置かれている状況や課題達成のための方策や解決策などのヒントを得るようとする。明治初年から昭和30年代頃における、教育・労働・福祉・医療・看護等の諸分野のテーマや先駆者達の生涯に焦点を当て、1回の授業で1つのテーマに絞り考察する。		
達成目標	授業の中で興味を持ったテーマや人物の中から1人を選んで資料調査し、独自の視点でレポートにまとめて半期に2回提出し発表する。		
受講資格	文化学科専攻科文化学専攻1年生	成績評価 方法	①レポート(半期に2回)80点、②授業中の発表・意見感想提出20点。
教科書	特に指定せず、資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
学生への要望	受け身ではなく主体的にシラバスを見て、各テーマを調べることを望みます。		
オフィスタイム	木曜1限または水曜1限、家政学館4階被服学研究室		
自学自習	事前学習: 次回のテーマを確認しキーワード又は人物について調べてくる(1時間) 事後学習: 授業をふまえてノートにまとめ、次回のキーワードを調べる(1時間)。課題が出た場合は、それを作成する(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方と概要の説明	授業の進め方と講義の内容についてシラバスに基づき説明する。明治維新について資料から学び、授業の導入とす
2	明治維新前後の女性	明治維新が女性に及ぼした影響は大きく、その一つに人権確立への端緒が開かれたことが挙げられる。女性戸主に地方参政権を与えることを要求した女性として、高知の楠瀬喜多の生涯に注目する。
3	義務教育の発足	「学制」の発布と、女子の就学率、裁縫の義務化、子守学級の特設、高等女学校令の制定、それに続く私立女学校の設立状況を学び、明治期の女子教育の歴史を概観する。
4	明治期の教育と女性(1)	津田梅子の生涯に焦点をあて、明治初期の女子教育、帰国後の足跡、女子教育史上果たした役割等を学ぶ。
5	明治期の教育と女性(2)	山川捨松の生涯に焦点をあて、明治初期の女子教育、帰国後の足跡、女子教育史上果たした役割等を学ぶ。
6	明治期の教育と女性(3)	明治期に渡米し結婚し、後にベストセラー作家となった女性、杉本鏡子の生涯に焦点をあて、当時の結婚観、国際交流等について学ぶ。
7	欧化主義と風俗習慣への影響	極端な欧化主義と風俗習慣への影響について資料に基づいて考察する。
8	西洋的良妻賢母主義教育の展開	西洋的良妻賢母主義に注目し、その根拠や背景について考え、女子英学塾・東京女医学校・日本女子大学の設立など、女子教育史を辿る。
9	新しい職業、職業婦人	明治維新後、女性の職域が拡大されていったとされるが、特に増加がめざましかった小学校の女教員や産婆、看護婦の出現、女性医師の誕生があった。日本で最初のトレンドナース大関和の生涯を考察する。
10	医療の分野で活躍した女性たち(1)	女医第一号とされる荻野吟子の生涯を辿り、その他にも医療分野で活躍した女性達の生涯を辿り、社会的背景を考える。
11	医療の分野で活躍した女性たち(2)	女性医師の輩出に尽力した女性たちの生涯を辿り、社会背景を考える。吉岡弥生の教育思想・生涯に注目する。
12	看護の分野で活躍した女性	看護の分野で活躍した女性たちの生涯と社会的背景を考察する。
13	看護の分野で福島県出身の女性	福島県内出身の看護分野で活躍した女性達の足跡をたどり、社会的背景を考える。瓜生イワ、服部けさなど。
14	医療と看護の分野で活躍した女性達	10~13回のまとめとして、どのような人々が先駆者となって活躍したかをまとめる。
15	婦人束髪会の設立	婦人束髪会設立とその背景、設立者達の意図と束髪の変遷、女性たちの受容課程等を調べ、レポートを作成し提出する。
16	『青鞥』の創刊	『青鞥』創刊の背景、母性保護論争について、与謝野晶子、平塚らいてうがどのような論争を繰り広げたのかを資料から考察する。
17	文化生活の到来	『文化生活研究』の創刊、米騒動、地域婦人会と生活改善、婦選運動などに着目し、文化生活とはどのようなものであったのかを考える。
18	大正期の女性の生活	教育の普及、職業婦人の増加、その様々な職業の成り立ちと当時の社会状況などについて学び、大正期の女性の生活と文化を考える。
19	文化生活と生活の合理化	文化住宅の出現、安部磯雄の台所観など、簡素化・節約化を基本とした生活改善について調べ、生活の合理化としてどのような側面から推進されたのか考える。
20	婦人保護事業に尽力した女性達(1)	一夫一婦制の確立や女子教育、廃娼運動に力をいれた矢嶋楯子らの生涯に着目し、婦人保護事業史を学ぶ。
21	婦人保護事業に尽力した女性達(2)	婦人保護事業に関わった女性達の生涯に注目し、それぞれの果たした役割や意義について考える。
22	中間まとめと補足	ここまでの流れを振り返り、補足事項の説明をする。課題レポート「婦人保護事業に尽力した人」というテーマで1人を選び、レポートにまとめて提出する。
23	女子教育に尽くした人々(1)	女子教育の草創期に尽力した人々の生涯を辿る。安井てつを生涯を取り上げ、果たした役割・意義について考え、女子教育の時代的な流れをとらえる。
24	女子教育に尽くした人々(2)	女子教育の草創期に尽力した人々の生涯を辿る。河井道の生涯を取り上げ、果たした役割・意義について考え、女子教育の時代的な流れをとらえる。
25	社会福祉事業と女性(1)	社会福祉事業に尽くした数名の女性達の生涯を資料から学び、社会的背景を考察する。
26	社会福祉事業と女性(2)	日本の保育事業の創始に関わった人々の生涯を考え、日本初の保育所創設者の生涯、設立の背景、その後の保育所事業の展開について資料から学び、意義を考える。
27	保育事業と女性	保育事業に尽力した数名の女性達の生涯に注目し、その社会的背景や保育史上の位置づけを考察する。
28	各分野の女性先駆者達	これまでの授業の振り返り。女性先駆者達の生涯や足跡、功績、果たした役割、社会的背景等を年表等の資料から確認する。概観した後に、最終レポートとして、各自が興味を持った人物1人を選び、果たした役割・歴史的な位置付け等を調べレポート作成し提出する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	女性先駆者達の家庭観、職業観	これまでの授業に登場した女性先駆者達の生涯や残した言葉の中から、女性先駆者達の家庭観・職業観について考える。
30	レポート発表・質疑応答	これまでの流れを振り返り、各自が注目した人物1人を取り上げ調査しレポートにまとめたものを全員の前で発表する。相互に質疑応答をして考えを深める。

平成29年度

<b>科目名</b>	文化史総合演習		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	野沢 謙治			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	人間の生きた証しである歴史の専門知識を深化、体系化し豊かな人間性と教養を高め、現実社会がかかえる複雑な諸問題を的確にとらえ、そこから研究課題を見つけ、多様な歴史学的方法によって問題を解決していくための批判的で合理的な思考力を身につけることを授業目標とする。授業のテーマは「羽黒修験と月山刀」である。修験道の修行において煩惱を砕く呪具である刀をとりあげ、修験道の儀礼の中での刀の信仰的意味を考える。殊に羽黒修験の月山刀を歴史、製作者、象徴性を明らかにする。			
<b>達成目標</b>	戦いの武器であり、山伏の山中修行の際に道を切り開く実用の道具でもあった刀が修験道の儀礼の中では煩惱を浄除する呪具として活用されたといわれているが、それは何時の時代なのか、どのように儀礼の中に取り入れられたのか、製作者は誰なのかという疑問を解明し羽黒修験の特質を明らかにするとともに東北地方における鍛冶と修験道の関係を明らかにする。			
<b>受講資格</b>	専攻科2年		<b>成績評価 方法</b>	①研究課題が適切で主体的であること(30点)②研究課題の発表が絶えず課題を克服し、合理的な思考力でなされていること(30点)③学修成果の論文は論理的で創造的であること(40点)の100点で評価し70点以上を学位授与の基準とする。
<b>教科書</b>	使用しない。			
<b>参考書</b>	指導教員が適宜、教示する。			
<b>学生への要望</b>	文化史総合演習は演習の授業形態をとるため学生の自主性が強く求められる。そのためには主体的に継続的に考える力、客観的で合理的な思考力、そして論理性と創造性が必要である。			
<b>オフィスタイム</b>	オフィスタイムは設けない。授業の中で全て解決することにする。			
<b>自学自習</b>	あらかじめ指定された参考文献は必ず読んでくること。復習では授業内容をまとめ不明なところを整理し翌週の授業で質問する時間をとるので質問すること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	課題の設定	課題の「羽黒修験と月山刀」を何故、研究課題としたのか。この研究課題を通して何を明らかにするのか。また歴史学的にどのような成果をあげることができるのかを発表してもらう。
2	山岳信仰の研究史 1	従来の山岳信仰の研究史を調べ発表する。指導教員よりの確かな批評を行うとともに適切な参考文献を指示する。
3	山岳信仰の研究史 2	従来の山岳信仰の研究史を調べ発表する。指導教員よりの確かな批評を行うとともに適切な参考文献を指示する。
4	山岳信仰の研究史 3	従来の山岳信仰の研究史を調べ発表する。指導教員よりの確かな批評を行うとともに適切な参考文献を指示する。
5	東北地方の山岳信仰 1	東北地方の著名な信仰の山(恐山 早池峰山 鳥海山、蔵王など)の伝承、神事などから信仰の特質を明らかにする。
6	東北地方の山岳信仰 2	東北地方の著名な信仰の山(恐山 早池峰山 鳥海山 蔵王など)の伝承、神事などから信仰の特質を明らかにする。
7	東北地方の山岳信仰 3	東北地方の著名な信仰の山(恐山 早池峰山 鳥海山 蔵王など)の伝承、神事などから信仰の特質を明らかにする。
8	東北地方の山岳信仰 4	東北地方の著名な信仰の山(恐山 早池峰山 鳥海山 蔵王など)の伝承、神事などから信仰の特質を明らかにする。
9	修験道の歴史と信仰 1	修験道の歴史をたどりながら、日本人の山への信仰、仏教の影響、殊に密教との関わり、そして神仏習合などから修験道の信仰的基盤を考える。さらに修験道の呪術儀礼の特質を考える。
10	修験道の歴史と信仰 2	修験道の歴史をたどりながら、日本人の山への信仰、仏教の影響、殊に密教との関わり、そして神仏習合などから修験道の信仰的基盤を考える。さらに修験道の呪術儀礼の特質を考える。
11	修験道の歴史と信仰 3	修験道の歴史をたどりながら、日本人の山への信仰、仏教の影響、殊に密教との関わり、そして神仏習合などから修験道の信仰的基盤を考える。さらに修験道の呪術儀礼の特質を考える。
12	修験道の歴史と信仰 4	修験道の歴史をたどりながら、日本人の山への信仰、仏教の影響、殊に密教との関わり、そして神仏習合などから修験道の信仰的基盤を考える。さらに修験道の呪術儀礼の特質を考える。
13	修験道の歴史と信仰 5	修験道の歴史をたどりながら、日本人の山への信仰、仏教の影響、殊に密教との関わり、そして神仏習合などから修験道の信仰的基盤を考える。さらに修験道の呪術儀礼の特質を考える。
14	修験道の歴史と信仰 6	修験道の歴史をたどりながら、日本人の山への信仰、仏教の影響、殊に密教との関わり、そして神仏習合などから修験道の信仰的基盤を考える。さらに修験道の呪術儀礼の特質を考える。
15	中間発表	前期の学修成果について発表をしてもらい、今後の研究の進め方について明確化する。
16	地域史と修験道 1	地元の『新庄市史』などの地域史や地元の地域史学会が発行する学会誌などから山形県内における修験道の研究成果をまとめ問題点をあきらかにする。
17	地域史と修験道 2	地元の『新庄市史』などの地域史や地元の地域史学会が発行する学会誌などから山形県内における修験道の研究成果をまとめ問題点を明らかにする。
18	地域史と修験道 3	地元の『新庄市史』などの地域史や地元の地域史学会が発行する学会誌などから山形県内における修験道の研究成果をまとめ問題点を明らかにする。
19	地域史と修験道 4	地元の『新庄市史』などの地域史や地元の地域史学会が発行する学会誌などから山形県内における修験道の研究成果をまとめ問題点を明らかにする。
20	羽黒山信仰と羽黒修験 1	羽黒山の開山伝承や歴史、羽黒修験の特質、殊に儀礼的側面を明らかにするとともに羽黒山、羽黒山山麓の里修験のフィールドワークを実施する。
21	羽黒山信仰と羽黒修験 2	羽黒山の開山伝承や歴史、羽黒修験の特質、殊に儀礼的側面を明らかにするとともに羽黒山、羽黒山山麓の里修験のフィールドワークを実施する。
22	羽黒山信仰と羽黒修験 3	羽黒山の開山伝承や歴史、羽黒修験の特質、殊に儀礼的側面を明らかにするとともに羽黒山、羽黒山山麓の里修験のフィールドワークを実施する。
23	羽黒山信仰と羽黒修験 4	羽黒山の開山伝承や歴史、羽黒修験の特質、殊に儀礼的側面を明らかにするとともに羽黒山、羽黒山山麓の里修験のフィールドワークを実施する。
24	羽黒山信仰と羽黒修験 5	羽黒山の開山伝承や歴史、羽黒修験の特質、殊に儀礼的側面を明らかにするとともに羽黒山、羽黒山山麓の里修験のフィールドワークを実施する。
25	羽黒山信仰と羽黒修験 6	羽黒山の開山伝承や歴史、羽黒修験の特質、殊に儀礼的側面を明らかにするとともに羽黒山、羽黒山山麓の里修験のフィールドワークを実施する。
26	論文の作成 1	以上の研究、調査をふまえ論文の作成に入る。あらかじめできた論文を指導教員に提出し授業の時に指導してもらい完全なものにしていく。
27	論文の作成 2	以上の研究、調査をふまえ論文の作成に入る。あらかじめできた論文を指導教員に提出し授業の時に指導してもらい完全なものにしていく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	論文の作成 3	以上の研究、調査をふまえ論文の作成に入る。あらかじめできた論文を指導教員に提出し授業の時に指導してもらい完全なものにしていく。
29	論文の作成 4	以上の研究、調査をふまえ論文の作成に入る。あらかじめできた論文を指導教員に提出し授業の時に指導してもらい完全なものにしていく。
30	最終発表	研究課題の最後のまとめとして完成した論文の発表を行う。



平成29年度

<b>科目名</b>	文化史総合演習		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	野沢 謙治・桑野 聡			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	人間の生きた証である歴史の専門知識を深化、体系化し豊かな人間性と教養を高め、現実社会がかかえる複雑な諸問題を的確にとらえ、そこから研究課題を見つけ、多様な歴史学的方法によって問題を解決していくための批判的で合理的な思考力を身につけることを授業目標としています。授業のテーマは「安達太良山の信仰史—その名称と神事から—」です。安達太良山信仰の特徴は火山の神、温泉の神、農耕の神とされてきましたが、アダタラという名称に注目し、タタラに鉄生産に必要な踏鞴を想定します。また山鳥の禁忌から従来、指摘されることがなかった新しい安達太良山信仰が浮かび上がる可能性があります。			
<b>達成目標</b>	人間の生きた証である歴史の専門知識を深化、体系化し豊かな人間性と教養を高め、現実社会がかかえる複雑な諸問題を的確にとらえ、そこから研究課題を見つけ、多様な歴史学的方法によって問題を解決していくための批判的で合理的な思考力を身につけることを授業目標としています。授業のテーマは「安達太良山の信仰史—その名称と神事から—」です。安達太良山信仰の特徴は火山の神、温泉の神、農耕の神とされてきましたが、アダタラという名称に注目し、タタラに鉄生産に必要な踏鞴を想定します。また山鳥の禁忌から従来、指摘されることがなかった新しい安達太良山信仰が浮かび上がる可能性があります。			
<b>受講資格</b>	専攻科2年		<b>成績評価 方法</b>	①研究課題が適切で主体的であること(30点)②研究課題の発表が絶えず課題を克服し、合理的な思考力でなされていること(30点)③学修成果の論文は論理的で創造的であること(40点)の100点で評価し70点以上を学位授与の基準とする。
<b>教科書</b>	使用しない。			
<b>参考書</b>	指導教員が適宜、教示する。			
<b>学生への要望</b>	文化史総合演習は2年間の専攻科の学修の総まとめ科目であり、その成果は学位授与に直接、連動しています。そのため学生の自主性が強く求められると同時に主体的に継続的に考える力、客観的で合理的な思考力、そして論理性と創造性が必要となります。事前学修に2時間、事後学修に1時間の時間をとって下さい。			
<b>オフィスタイム</b>	オフィスタイムは設けない。授業の中で全て解決することにする。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	課題の設定	「安達太良山信仰史—その名称と神事から—」の研究課題を何故、設定したのかを発表してもらい、問題意識の明確化と指導教員との研究課題の共有化をはかる。
2	山岳信仰の研究史1	従来の山岳信仰の研究史を調べ発表する。指導教員よりの確な批評を行うとともに適切な参考文献を指示する。
3	山岳信仰の研究史2	同 前
4	山岳信仰の研究史3	同 前
5	東北地方の山岳信仰1	東北地方の著名な信仰の山(恐山 早池峰山 鳥海山、蔵王、出羽三山など)の伝承、神事などから信仰的特質を明らかにする。
6	東北地方の山岳信仰2	同 前
7	東北地方の山岳信仰2	同 前
8	東北地方の山岳信仰3	同 前
9	福島県内の山岳信仰1	安達太良山を除いた県内の著名な信仰の山(吾妻山 磐梯山 明神岳 湯ノ岳など)の伝承、神事から信仰的特質を明らかにする。
10	福島県内の山岳信仰2	同 前
11	福島県内の山岳信仰3	同 前
12	地域史と山岳信仰1	地元の『本宮町史』から安達太良山信仰の歴史と信仰的特質を明らかにする。
13	地域史と山岳信仰2	同 前
14	地域史と山岳信仰3	同 前
15	地域史と山岳信仰4	同 前 山麓の信仰的遺物(小祠 石碑など)の調査を実施する。
16	中間発表	前期の学修成果について発表をしてもらい、今後の研究の進め方について明確化する。
17	地域史と山岳信仰1	地元の『二本松市史』から安達太良山信仰の歴史と信仰的特質を明らかにする。
18	地域史と山岳信仰2	同 前
19	安達太良山信仰の特質1	安達太良山の火山の神としての信仰的特質について分析を行う。
20	安達太良山信仰の特質2	安達太良山信仰の温泉神としての信仰的特質について分析を行う。
21	安達太良山信仰の特質3	安達太良山信仰の農耕神的性格とその神事について分析を行う。
22	安達太良山信仰の特質4	同 前
23	安達太良山信仰の特質5	安達太良山信仰における金属神的性格について分析を行う。
24	安達太良山信仰の特質6	同 前
25	安達太良山信仰の特質7	同 前
26	論文の作成1	安達太良山信仰の特質1から7の研究成果をふまえた論文の作成と指導を行う。
27	論文の作成2	同 前
28	論文の作成3	同 前
29	論文の作成4	同 前
30	最終発表	研究課題の最後のまとめとして完成した論文の発表を行う。

平成29年度

<b>科目名</b>	文化史総合演習		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	桑野 聡			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	本授業は、当該学生の研究課題であるイギリス貴族の生活文化が、社会の近代化と共に他の社会階層の人々にも伝播・普及し、イギリスの国民的文化の形成にまで影響していくことを「紅茶」を手掛かりに考察することを歴史学的に検証していく作業を実施する。こうした分野の研究には、社会史的視点と共に従来の政治・経済・文化の多様な基礎知識を踏まえて、学術的見解を批判的に検証する歴史学的基礎力が必要となる。これをトレーニングしながら、最終的に学術レポートの形にまとめていく作業を実践的に実施する。			
<b>達成目標</b>	歴史学（西洋史）の学士レベルの学識を得ることを目標とする。具体的には事件・人物・年代などの基礎知識に止まらず、歴史資料を読み込む能力を身に付けることで、社会的・政治的・経済的・文化的な多様な歴史的要因が複雑に関係しながら特定の時代や地域における歴史事象が成立することを理解できるようになり、客観的な実証性のある意見を叙述できるようになることを目指す。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	提出レポート（100%）	
<b>教科書</b>	特に使用しない			
<b>参考書</b>	授業中に適宜提示する。			
<b>学生への要望</b>	①学術文献を読み込む姿勢。 ②参考文献を基に事実を検証するために議論する姿勢。 ③レポートを繰り返し修正していく粘り強い姿勢。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日・水曜日 Ⅱ限（10:30～12:00） 考古学研究室			
<b>自学自習</b>	基本的に学生自身が問題提供を行う姿勢が重要であるため、年間スケジュールを頭に入れて計画的にレポートを書き進めること。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本授業の計画を確認する
2	紅茶文化の基礎知識整理①	専攻科1年次に扱った紅茶の歴史の基礎知識を確認する。
3	紅茶文化の基礎知識整理②	専攻科1年次に扱った紅茶の歴史の基礎知識を確認する。
4	紅茶文化の基礎知識整理③	専攻科1年次に扱った紅茶の歴史の基礎知識を確認する。
5	紅茶文化の基礎知識整理④	専攻科1年次に扱った紅茶の歴史の基礎知識を確認する。
6	18世紀イギリス社会の検証①	紅茶文化がイギリスに定着する分岐点と言える18世紀社会の検証を行う。
7	18世紀イギリス社会の検証②	紅茶文化がイギリスに定着する分岐点と言える18世紀社会の検証を行う。
8	18世紀イギリス社会の検証③	紅茶文化がイギリスに定着する分岐点と言える18世紀社会の検証を行う。
9	18世紀イギリス社会の検証④	紅茶文化がイギリスに定着する分岐点と言える18世紀社会の検証を行う。
10	トワイニング研究①	トワイニングの功績を整理する。
11	トワイニング研究②	トワイニングの功績を整理する。
12	ウエッジウッド研究①	ウエッジウッドの功績を整理する。
13	ウエッジウッド研究②	ウエッジウッドの功績を整理する。
14	まとめ①	紅茶文化のイギリス社会への普及を文化伝播の問題として考える。
15	まとめ②	紅茶文化のイギリス社会への普及を文化伝播の問題として考える。
16	後期ガイダンス	後期の授業について確認する。
17	研究発表①	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
18	研究発表②	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
19	研究発表③	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
20	研究発表④	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
21	研究発表⑤	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
22	研究発表⑥	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
23	研究発表⑦	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
24	研究発表⑧	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
25	研究発表⑨	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
26	研究発表⑩	学修成果レポートの一部を発表し、内容を検討する。
27	研究成果確認①	レポートの全体像を完成させ、註・資料など実証性を担保する部分の整理に取り組む。
28	研究成果確認②	レポートの全体像を完成させ、註・資料など実証性を担保する部分の整理に取り組む。
29	研究成果確認③	レポートの全体像を完成させ、註・資料など実証性を担保する部分の整理に取り組む。
30	まとめ	2年間の研究を確認し、最終報告会の準備を行う。

平成29年度

<b>科目名</b>	文化史総合演習	<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	高藤 美保子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	専攻科2年間の総まとめ科目である。西洋美術史の主題を設定し、調査、思索を重ねてレポートをまとめる。		
<b>達成目標</b>	美術史的に意義のあるレポートをまとめ、歴史学の学士（文学）を授与される実力を身につける。		
<b>受講資格</b>	専攻科2年生。一年次に「フランスの歴史と文化」の単位を取得していること。	<b>成績評価 方法</b>	①意義のある研究テーマの設定②英文を含む参考文献の読解③美術品の調査④論理的、創造的な思索⑤説得力のあるレポート 各20点、100点満点。70点以上で学位授与機構への申請対象とする。
<b>教科書</b>	特に指定しない。		
<b>参考書</b>	適宜指示する。		
<b>学生への要望</b>	授業時間以外でも教員と連絡が付くようにすること。		
<b>オフィスタイム</b>	月V、水V 第5研究室		
<b>自学自習</b>	事前学修：前回までの課題を解決する。1時間 事後学修：授業内で浮上した課題を解決する。1時間		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。研究倫理の指導を受ける。 レポートのテーマ「サルバドール・ダリにおける核開発 -<ビキニの3つのスフィンクス>を中心に」を確認する。
2	文献調査 1	画家の自伝を日本語で読む。作品制作時の歴史状況と作家の個人的状況を理解する。
3	文献調査 2	画家の自伝を日本語で読む。作品制作時の歴史状況と作家の個人的状況を理解する。
4	文献調査 3	画家の自伝を日本語で読む。作品制作時の歴史状況と作家の個人的状況を理解する。
5	文献調査 4	画家の自伝を日本語で読む。作品制作時の歴史状況と作家の個人的状況を理解する。
6	文献調査 5	画家の自伝を日本語で読む。作品制作時の歴史状況と作家の個人的状況を理解する。
7	英語文献調査 1	ダリ研究の英文の専門書を読む。作品の歴史的位置を理解する。
8	英語文献調査 2	ダリ研究の英文の専門書を読む。作品の歴史的位置を理解する。
9	英語文献調査 3	ダリ研究の英文の専門書を読む。作品の歴史的位置を理解する。
10	英語文献調査 4	ダリ研究の英文の専門書を読む。作品の歴史的位置を理解する。
11	英語文献調査 5	ダリ研究の英文の専門書を読む。作品の歴史的位置を理解する。
12	美術品調査 1	諸橋近代美術館で実際に作品を調査する。
13	美術品調査 2	諸橋近代美術館で実際に作品を調査する。
14	美術品調査 3	諸橋近代美術館で実際に作品を調査する。
15	中間報告	前期の調査の成果を報告する。
16	文献調査 1	結論を導くために必要な文献を調査する。
17	文献調査 2	結論を導くために必要な文献を調査する。
18	文献調査 3	結論を導くために必要な文献を調査する。
19	文献調査 4	結論を導くために必要な文献を調査する。
20	文献調査 5	結論を導くために必要な文献を調査する。
21	草稿執筆 1	テーマ設定の部分を書き上げ、指導を受ける。
22	草稿執筆 2	調査報告の部分を書き上げ、指導を受ける。
23	草稿執筆 3	考察の部分を書き上げ、指導を受ける。
24	草稿執筆 4	結論部分を書き上げ、指導を受ける。
25	再考	問題設定から結論までの展開を再考する。
26	確認	問題設定から結論までの展開を確認する。
27	図版等の著作権処理	作品の写真掲載に関し、美術館等の許可を得る。
28	作図、作表	結論を導くために必要な図表を作る。
29	参考文献明示	参考文献のリストを整え、引用文献を明示する。
30	レポート完成	12,000字程度のレポートを書き上げ、図版を適宜挿入する。

平成29年度

<b>科目名</b>	西洋美術史演習		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	高藤 美保子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】 西洋美術史の方法論に則って、独自のテーマを設定し、レポートを書き上げる。</p> <p>【授業の内容】 論文を含む和文、英文の基本文献を精読し、美術史の方法論を理解し、各自のテーマに取り組む。4000字程度のレポートと400字程度の要旨をまとめる。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【授業終了時の達成目標】</p> <p>①西洋美術史の最新の学問的成果に関心を持ち、ある程度理解できるようになる。 ②西洋美術を調査、分析する基礎力を持つ。 ③論理的な思考と文章表現ができるようになる。</p>			
<b>受講資格</b>	専攻科2年生 西洋美術史関連のレポートをまとめようとする学生	<b>成績評価 方法</b>	授業中の進捗状況 (30点) レポートと要旨 (70点)	
<b>教科書</b>	学生の興味関心に応じて決める。			
<b>参考書</b>	大学図書館で10冊程度紹介する。			
<b>学生への要望</b>	西洋美術史は幅広いので、興味関心の強い、独創的なテーマをみつけ、精緻な調査と論理的な文章、説得力のある発表を目指してほしい。英文資料を含む参考文献の読解を課す。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜V、水曜V No5研究室			
<b>自学自習</b>	事前学修：参考文献を読み、当日話題にすべき内容を文章にまとめておくこと (1時間) 事後学修：更なる課題に対して調査し、考えを整理しておくこと (1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	過去の学生のレポートを紹介し、学生個々のテーマを相談する。
2	基本文献	テーマに沿って、精読すべき基本文献を選定する。
3	読解 1	基本文献①を精読する。
4	読解 2	基本文献①を精読する。
5	読解 3	基本文献①を精読する。
6	読解 4	基本文献①を精読する。
7	美術館見学	市立美術館の展示を見学する。
8	美術館資料調査	市立美術館の資料コーナーで、展示品の解説を検討する。
9	美術館見学記録	見学で得た知見と感想を口頭で発表し、1200字程度の文章に記録する。
10	先行研究調査	学術雑誌「美術史」「美術史研究」「美学」から先行論文を探す。
11	論文読解 1	論文①を精読し、論旨をまとめる。
12	論文読解 2	論文②を精読し、論旨をまとめる。
13	論文読解 3	論文③を精読し、論旨をまとめる。
14	英文読解 1	英文資料を読解し、和訳する。
15	英文読解 2	英文資料を読解し、和訳する。
16	英文読解 3	英文資料を読解し、和訳する。
17	和訳中間まとめ	途中までの和訳を検討する。
18	英文読解 4	英文資料を読解し、和訳する。
19	英文読解 5	英文資料を読解し、和訳する。
20	和訳最終まとめ	和訳を完成し、論旨を理解する。
21	読解 5	基本文献②を精読する。
22	読解 6	基本文献②を精読する。
23	読解 7	基本文献②を精読する。
24	読解 8	基本文献②を精読する。
25	関連調査 1	テーマの問題点を解決するために、関連資料を調査する。
26	関連調査 2	テーマの問題点を解決するために、関連資料を調査する。
27	レポートの章立て	論理的なレポートとなる様、章立てを検討する。
28	レポート執筆における諸注	引用文の示し方、文献目録の表記等、レポート執筆における注意を確認する。
29	レポートの完成と講評	レポートを完成し、発表する。それに対し、講評する。
30	要旨の完成と講評	要旨をまとめ、発表する。それに対し、講評する。

平成29年度

<b>科目名</b>	日本生活史演習		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	野沢 謙治			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	前期は柳田国男の『雪国の春』を読みながら東北の生活（民俗）の文化的系譜について考えることにする。『雪国の春』にみられる柳田国男の東北観の基調には南からの人々の移住と文化の伝播がある。南の生活が雪国の中でどのように変化し受容されたかということである。しかし同時に考えなければならないのは縄文以来の基層文化である。この基層文化の特質を明らかにする。後期は菅江真澄の『真澄遊覧記』を読みながら江戸時代後期の東北の生活の実態を現今の生活と比較しながら明らかにする。殊に正月行事の記録に注目し、そこから東北の生活文化の特質と基層文化を考える。			
<b>達成目標</b>	『雪国の春』から東北の基層文化を、『真澄遊覧記』から江戸時代後期の東北の生活の実態を明らかにするが、それはいいかえれば近代の民俗学学者の民俗学的視点と近世の知識ある旅人の歴史学視点を比較することであり、そこから民俗の変遷と東北の民俗の特質と多様性を十分に理解することができるようになる。			
<b>受講資格</b>	専攻科2年	<b>成績評価 方法</b>	レポートを前期に一本、後期に一本、提出してもらう。前期のレポート50点、後期のレポート50点の100点で評価する。	
<b>教科書</b>	柳田国男『雪国の春』（角川ソフィア文庫） 菅江真澄『真澄遊覧記』（平凡社東洋文庫）はプリントし配布。			
<b>参考書</b>	必要に応じ指示します。			
<b>学生への要望</b>	テキスト、テキストのプリントを熟読し内容を十分に把握しておいてください（1時間くらい時間をかけて）。また授業をふまえて、その内容をまとめておくこと（1時間）。			
<b>オフィスタイム</b>	金曜日IVコマ目 創学館4階No.5研究室			
<b>自学自習</b>	テキストまたはプリント資料を読むのであらかじめ熟読し内容を理解しておくこと。授業の内容はまとめ文章化しておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	柳田国男の東北観 1	『雪国の春』（大正14年）を読みながら柳田国男の東北観を考えます。柳田の東北観の背景には稲と暦を携えた南からの人々の移住があり、その暦をもとに雪の中で春・正月を祝ったということです。雪国の正月は南の文化ということになります。この考えは正しいのでしょうか。
2	柳田国男の東北観 2	柳田の東北観には東と西の文化の違いを考慮しないことがあります。しかも南の沖縄への関心が高いが、東北への関心が弱くなっていく傾向があります。また東北の文化のなかに未開性を見えています。
3	東北の風景論	『草木と海』（大正15年）には柳田の東北の風景論が展開されています。殊に樺が東北の各地に点々として存在していることの背景に神木としての樺を伝えた旅する巫女が想定されています。
4	東北の樹皮文化	『豆手帖』（大正9年）樹皮の文化を考えます。カバカワは白樺の皮を利用した紙です。白樺以外にシナ、山ブドウ、サワグルミ、桜などの皮も利用され縄、着物、箕、ミノなどが作られました。しかも東北の樹皮文化は東北アジアにつらなります。
5	雪国の火	『雪中随筆』（昭和2年）は雪国、東北の火の問題を扱っています。炬燵の誕生、イロリ、炭、火の神など火の技術論から社会的側面、そして信仰的側面など多様な火の文化に解説が加えられています。
6	竈神の由来	『豆手帖』から竈神という東北の家の神の問題を考えます。仙台以北に分布する土や木で作られた仮面の竈神には竈宮童子の話や炭焼き長者譚がかかわり、そこには竈の火が死と再生の象徴性を現わしていることがわかります。
7	足袋と菓子	『豆手帖』から足袋、つまり東北における木綿の問題を考えます。東北では16世紀に入っても木綿は栽培されず麻が着物の材料として使用されていました。そのため関西から古手（古着）として木綿の着物が入ってきました。最上川の舟運の上り荷の大半は古手でした。
8	東北の死生観	『豆手帖』の鶴住居の寺には死者の肖像画が奉納されていました。寺に死者の肖像画や写真を納めることは東北各地にみられ、しかも死霊婚ということも行われていました。東北独自の死生観を考えます。
9	東北における仏教	『豆手帖』にカバカワという紙以前の樹皮紙のことが取り上げられている。しかもカバカワには仏様（阿弥陀）が描かれていました。それは隠し念仏の信仰の対象であったのです。隠し念仏という秘密結社の成立を考えます。
10	正月の訪問者	『おがさべり』（昭和2年）は男鹿半島の風景を論じたものでありますが、男鹿半島にはナマハゲという来訪者の行事、いいかえれば神の訪れ慣行が色濃く残っています。男鹿の歴史的、文化的背景からナマハゲの成立を考えます。
11	東北の盆踊り	『清光館哀史』（大正15年）には岩手県九戸郡の漁村の盆踊りのことが記されています。柳田は、その盆踊りに性的放逸を見えています。それは古代の歌垣の系譜を引く芸能の古層にあたるものです。
12	東北の正月行事	『真澄遊覧記を読む』（昭和3年）は『真澄遊覧記』から正月行事を抽出したものです。そこから特徴的に浮かび上がるのは稲作の予祝行事です。柳田はそこに稲作が南から東北に伝えられ東北文化の基調に稲作文化を想定していることがわかります。
13	正月行事と非稲作文化	『真澄遊覧記』からとりあげた正月行事は柳田が指摘するように稲作文化に彩られていますが、詳細に見てみると非稲作文化の特徴も発見できるのです。それは雑穀文化です。
14	稲作儀礼と食	東北には古い米の食べ方としてシトギというものがありました。シトギは人が食べるよりは神への供物として使用されることが多くありました。このシトギは本来、雑穀の食べ方でした。
15	まとめ	授業を通して発見できた東北の文化、殊に暮ら・民俗の特徴について発表してもらいます。その発表をもとに柳田の東北観、東北文化り捉え方について議論、検討を加えたいと思います。
16	菅江真澄	『真澄遊覧記』の作者・菅江真澄は角館で78歳の人生を終るまで48回の正月を東北の地で迎えました。菅江真澄の出自、何故、旅に出たのか、彼の知識の源泉はどこにあったのか、東北のどのような歴史や文化に注目したのかを考えます。
17	東北以前の旅	真澄は三河から信濃に入り、越後、そして出羽に足を踏み入れます。この間の旅の記録が『伊那の中路』『諏訪の海』『くめじの橋』です。これらの旅の記録から真澄の旅人の旅の探りを探ります。
18	小野の里	天明5年（1785）の旅日記であり、現在の秋田県湯沢市付近の正月行事が記されています。粟穂、稲穂、オカノ餅、ヤセ馬、田遊びなど行事を民俗学的に考えます。
19	霞む駒形	天明7年の旅日記であり、現在の岩手県前沢町付近の正月行事が記されています。ヤセ馬、豆焼き、ハダテ、カセギトリ、黄金餅などの行事を民俗学的に考えます。
20	千鳥の磯	寛政4年（1792）、菅江真澄は北海道の松前で正月を迎えましたが、その時の記録です。松前城下の正月行事、そしてアイヌの人々の貴重な生活を考えます。
21	奥の手振	寛政6年の旅日記であり、現在の青森県下北半島、田名部付近の正月行事が記されています。ミタマノ飯、節分、門松、七草、カセギトリなどの行事を民俗学的に考えます。
22	津軽の奥	寛政8年の旅日記であり、現在の青森県浅虫温泉付近の正月行事について記されています。オカエビス、バカバカ、鳥追い、節分などの行事について民俗学的に考えます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	津軽のおち	寛政9年の旅日記であり、現在の青森県深浦付近の正月行事が記されています。心松、物忌み、オカノ餅、銭馬などの行事について民俗学的に考えます。
24	津軽のつと	寛政10年の旅日記であり、現在の青森県小湊付近の正月行事が記されています。イタコ、杵子舞など殊に山村の正月行事について民俗学的に考えます。
25	薄の出湯	享和3年(1803)の旅日記であり、現在の秋田県北秋田郡付近の正月行事が記されています。物売り、カマクラ焼き、若水、農具の年取り、ゴゼなどの行事について民俗学的に考えます。
26	浦の笛滝	文化元年(1804)の旅日記であり、現在の秋田県阿仁地方の正月行事が記されています。阿仁地方は東北の狩人・マタギの発生地であり、その奥深い山村での正月行事を民俗学的に考えます。
27	氷魚の村君	文化7、8年の旅日記であり、現在の秋田県男鹿地方の正月行事が記されています。ニワ田植え、鳥追いなどの行事とともに正月の行事食を民俗学的に考えます。
28	男鹿の寒風	文化8年の旅日記であり、現在の秋田県男鹿地方の正月行事が記されています。ミタマノ飯、オカノ餅、ナマハゲなどの行事を民俗学的に考えます。
29	まとめ1	『真澄遊覧記』の正月行事から東北における稲作文化の共通性と特異性(地域性)を考えると同時に非稲作文化の残存のあり方を考えます。
30	まとめ2	『真澄遊覧記』を読んだ感想をふくめ、正月行事から浮かび上がってくる東北文化の特徴について発表してもらいます。さらに東北文化の古層について議論し検討したいと思います。

<b>科目名</b>	日本宗教史演習		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>末木文美士氏の『日本宗教史』（岩波新書）を教科書として使い、毎回輪読をし、日本宗教文化の歴史を学ぶ。新書版だから、読みやすいというイメージがあるが、実際に読んでみると読めない言葉、わからない用語が多々ある。一字一句を声を出して読むという読書の経験が少なくなってきた今日では、一冊の本を時間をかけてじっくり読むという姿勢が珍しいと思われるかも知れないが、必要なことであり、学ぶという本来あるべき姿勢だと考える。</p> <p>授業を通じて以下のことを達成してほしい。</p> <p>①日本史における宗教のあり方を学ぶ。 ②宗教の歴史的展開を学ぶ。 ③宗教学という学問のまなざしで宗教を考える。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>授業を通じて以下のことを達成してほしい。</p> <p>①日本史における宗教のあり方を学ぶ。 ②宗教の歴史的展開を学ぶ。 ③宗教学という学問のまなざしで宗教を考える。</p>			
<b>受講資格</b>	短大専攻科2年	<b>成績評価 方法</b>	試験成績60点、レポート提出20%、小テスト20%など。理解度8割で、合とする。	
<b>教科書</b>	『日本宗教史』、末木文美士著。岩波新書、2006年。丸善などの書店で買い求めることができる。			
<b>参考書</b>	末木文美士『日本宗教史』、岩波新書。担当教員個人が持っているが、授業でよく参考にするので、できればそれぞれが一冊を購入することをおすすめする。			
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に積極的に参加すること。</li> <li>・ノートをこまめにとること。</li> </ul>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日16時～。担当教員の研究室（創学館No.5）			
<b>自学自習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。</li> <li>・事後学習：与えられた課題を時間内に完成すること(1時間)。</li> </ul>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	後期のガイダンス	各回の内容や計画、成績評価の方法などについて説明するほか、教科書のことや参考文献購入のことについても話す予定です。必ず出席してください。
2	日本宗教史とはなにか	これまで日本史の立場に日本宗教史の研究が多かったが、宗教学独自の視点によるものはあまりないようである。宗教学独自の「日本宗教史」は可能か。これまでの議論を踏まえつつ考えてみる。
3	記紀神話の世界	古事記や日本書紀に伝えられている神々の構造を分析し、記紀時代の神話はいったい何を意味するのかを考える。丸山真男の「古層」の問題も話題にする予定である。
4	神と仏	仏教の伝来と神々の変容、神仏習合の諸相などについて、指定された教科書を一緒に読みながら、理解する。神話から歴史への移行に見られる宗教の役割を考えることも課題として予定されている。
5	神仏論の展開	これまでの話を踏まえ、中世の神仏論の展開を考えてみる。具体的には、実践しようとしての仏教思想、王法と仏法との関係を取り上げて話題にする。『日本書紀』を参考しながら授業を進める予定である。
6	神仏と中世（1）	習合神道の理論や中世的思维と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指す。
7	神仏と中世（2）	習合神道の理論や中世的思维と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指す。
8	世俗と宗教（1）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。
9	世俗と宗教（2）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。
10	神道とナショナリズム（1）	近世の神道の展開などを話題にし、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。
11	神道とナショナリズム（2）	近世の神道の展開などを話題にし、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。
12	近代化と宗教（1）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。
13	近代化と宗教（2）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。
14	民衆宗教の形成	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総合的に考えてみる予定である。
15	最終回	全体のまとめ。レポートの作成について指示する。

科目名	日本文化史演習	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	通年		
授業概要	幕末の南会津地域の村々と戊辰戦争を中心とした古文書を解説する。古文書に触れ、解説を通して文書が作成された背景について考察する。		
達成目標	またこの授業では、文書解読の技能を習得すること。そして、古文書を通してその時代の用語や文章の書き方を学ぶことである。古文書の解読技能を習得を目指し、読むだけでなく内容を理解し史料の作成背景などを考察するための多角的視覚を養う。		
受講資格	専攻科2年生	成績評価 方法	①口頭発表40点(史料の読解・解釈) ②課題60点(30点・30点の2回)
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	日本歴史学会編『演習古文書選 近世編』吉川弘文館、1971年 児玉幸多編『くずし字用例事典』東京堂出版、1993年		
学生への要望	史料読解のため必ず予習復習を行い、問題関心・探究心をもって授業に出席すること。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅳ時間目。創学館4階、No.4研究室		
自学自習	事前学修：配布史料の読解(1時間) 事後学修：授業内容及び史料内容の復習(1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	古文書について(1)	古文書を解説するうえで必要とされる基本的知識について説明する。
2	南会津地方の村々の記録(1)	江戸時代、現在の南会津地方に位置していた南山御蔵入地の村に関する史料を読み解き、幕末の南山御蔵入地について実証を試みる。
3	南会津地方の村々の記録(2)	元治元(1865)年に水戸浪士の反乱が起った。その浪士が南会津地方へ侵入する可能性が持ち上がる。それに関する史料を読み解きその時の状況とその影響について検証する。
4	南会津地方の村々の記録(3)	元治元(1865)年に水戸浪士の反乱が起った。その浪士が南会津地方へ侵入する可能性が持ち上がる。それに関する史料を読み解きその時の状況とその影響について検証する。
5	南会津地方の村々の記録(4)	元治元(1865)年に水戸浪士の反乱が起った。その浪士が南会津地方へ侵入する可能性が持ち上がる。それに関する史料を読み解きその時の状況とその影響について検証する。
6	南会津地方の村々の記録(5)	元治元(1865)年に水戸浪士の反乱が起った。その浪士が南会津地方へ侵入する可能性が持ち上がる。それに関する史料を読み解きその時の状況とその影響について検証する。
7	南会津地方の村々の記録(6)	江戸時代、南山御蔵入地には多くの番所が存在した。水戸浪士の領内侵入により番所の警衛にも重点が置かれるようになる。その様子について、史料をもとに考察する。
8	南会津地方の村々の記録(7)	江戸時代、南山御蔵入地には多くの番所が存在した。水戸浪士の領内侵入により番所の警衛にも重点が置かれるようになる。その様子について、史料をもとに考察する。
9	南会津地方の村々の記録(8)	江戸時代、南山御蔵入地には多くの番所が存在した。水戸浪士の領内侵入により番所の警衛にも重点が置かれるようになる。その様子について、史料をもとに考察する。
10	南会津地方の村々の記録(9)	江戸時代、南山御蔵入地には多くの番所が存在した。水戸浪士の領内侵入により番所の警衛にも重点が置かれるようになる。その様子について、史料をもとに考察する。
11	南会津地方の村々の記録(10)	慶応4(1868)年1月に京都において鳥羽伏見の戦いが始まり、会津藩領であった南山御蔵入地にも影響をもたらした。南山御蔵入地の警衛に関する史料から会津戦争に対する村の備えについて検証する。
12	南会津地方の村々の記録(11)	慶応4(1868)年1月に京都において鳥羽伏見の戦いが始まり、会津藩領であった南山御蔵入地にも影響をもたらした。南山御蔵入地の警衛に関する史料から会津戦争に対する村の備えについて検証する。
13	南会津地方の村々の記録(12)	慶応4(1868)年1月に京都において鳥羽伏見の戦いが始まり、会津藩領であった南山御蔵入地にも影響をもたらした。南山御蔵入地の警衛に関する史料から会津戦争に対する村の備えについて検証する。
14	南会津地方の村々の記録(13)	慶応4(1868)年1月に京都において鳥羽伏見の戦いが始まり、会津藩領であった南山御蔵入地にも影響をもたらした。南山御蔵入地の警衛に関する史料から会津戦争に対する村の備えについて検証する。
15	南会津地方の村々の記録(14)	幕末における南山御蔵入地の村の様子やそれに直面した諸問題などについて総括する。
16	会津戊辰戦争の記録(1)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
17	会津戊辰戦争の記録(2)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
18	会津戊辰戦争の記録(3)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
19	会津戊辰戦争の記録(4)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
20	会津戊辰戦争の記録(5)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
21	会津戊辰戦争の記録(6)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
22	会津戊辰戦争の記録(7)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
23	会津戊辰戦争の記録(8)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
24	会津戊辰戦争の記録(9)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
25	会津戊辰戦争の記録(10)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
26	会津戊辰戦争の記録(11)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
27	会津戊辰戦争の記録(12)	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解説を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	会津戊辰戦争の記録（13）	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解読を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
29	会津戊辰戦争の記録（14）	会津若松市立図書館に所蔵されている「会津藩降伏仕末資料」解読を中心に、会津戦争終結時の様子などを史料的に読み解く。
30	会津戊辰戦争の記録（15）	戊辰戦争における会津戦争終結後の様子について史料から読み取ったことについて総括する。

平成29年度

<b>科目名</b>	中国文化史演習		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	渡部 東一郎			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 漢文訓読法に習熟するとともに、現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 唐代の文人によって書かれた短編小説、「唐代伝奇」の中から数篇を選び、演習形式で読解していく。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ①漢文を訓読によって正確に解釈できる。 ②現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深める。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 漢文訓読法に習熟するとともに、現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 唐代の文人によって書かれた短編小説、「唐代伝奇」の中から数篇を選び、演習形式で読解していく。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ①漢文を訓読によって正確に解釈できる。 ②現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深める。</p>			
<b>受講資格</b>	専攻科 文化学専攻 2年	<b>成績評価 方法</b>	①前期・後期の期末試験：各30点 ②出席・授業参加度：40点	
<b>教科書</b>	[教科書] プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	[参考書] 授業内で必要に応じて指示する。			
<b>学生への要望</b>	予習の際に原文に対する自分なりの理解を得た上で受講することが大切である。なお、漢和辞典を毎回持参すること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日4限の教務部非常勤控室など。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	唐代伝奇について概説する。
2	「唐代伝奇」読解(1)	「離魂記」読解①
3	「唐代伝奇」読解(2)	「離魂記」読解②
4	「唐代伝奇」読解(3)	「人虎伝」読解①
5	「唐代伝奇」読解(4)	「人虎伝」読解②
6	「唐代伝奇」読解(5)	「人虎伝」読解③
7	「唐代伝奇」読解(6)	「人虎伝」読解④
8	「唐代伝奇」読解(7)	「人虎伝」読解⑤
9	「唐代伝奇」読解(8)	「板橋三娘子伝」読解
10	「唐代伝奇」読解(9)	「補江総白猿伝」読解①
11	「唐代伝奇」読解(10)	「補江総白猿伝」読解②
12	「唐代伝奇」読解(11)	「補江総白猿伝」読解③
13	「唐代伝奇」読解(12)	「補江総白猿伝」読解④
14	「唐代伝奇」読解(13)	「補江総白猿伝」読解⑤
15	まとめ	前期授業の内容を踏まえたまとめを行う。
16	「唐代伝奇」読解(14)	「定婚店」読解①
17	「唐代伝奇」読解(15)	「定婚店」読解②
18	「唐代伝奇」読解(16)	「杜子春伝」読解①
19	「唐代伝奇」読解(17)	「杜子春伝」読解②
20	「唐代伝奇」読解(18)	「杜子春伝」読解③
21	「唐代伝奇」読解(19)	「杜子春伝」読解④
22	「唐代伝奇」読解(20)	「杜子春伝」読解⑤
23	「唐代伝奇」読解(21)	「枕中記」読解①
24	「唐代伝奇」読解(22)	「枕中記」読解②
25	「唐代伝奇」読解(23)	「枕中記」読解③
26	「唐代伝奇」読解(24)	「崔護(人面桃花)」読解
27	「唐代伝奇」読解(25)	「東城老父伝」読解①
28	「唐代伝奇」読解(26)	「東城老父伝」読解②
29	「唐代伝奇」読解(27)	「東城老父伝」読解③
30	まとめ	後期授業の内容を踏まえたまとめを行う。

平成29年度

科目名	西洋文化史演習	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員	桑野 聡		
開講期	通年		
授業概要	西洋史を学ぶための基礎知識と基本姿勢を習得することを目的とする。 参加学生の研究テーマの報告と質疑応答を繰り返すことで、各自のテーマの問題の所在、研究史上の問題点などを明らかにし、文献から借用してきた知識ではなく、自分のデータ・情報として利用する姿勢を強化していきたい。		
達成目標	テキストを自分なりに読み込んで、他の情報で補足・批判できる力の育成		
受講資格	専攻科2年生	成績評価 方法	報告(50点)・授業態度・討論(50点)
教科書	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」(関口左編著『人間守護の家政学—福祉社会の実現をめざして』家政教育社 1999年)264～276頁		
参考書	必要に応じて随時提示。		
学生への要望	「高校世界史」程度の基礎知識と、議論に積極的に参加する姿勢を望む。		
オフィスタイム	火曜日・水曜日 II時限目(10:30~12:00)	考古学研究室	
自学自習	事前学習: 報告準備(1時間) 事後学習: 授業後の修正(1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本講義の進め方を解説し、導入とする。
2	学術論文の読み方①	テキストとする拙著「欧米諸国における生活と文化」を講読し、要約する。
3	学術論文の読み方②	テキストとする拙著「欧米諸国における生活と文化」を講読し、要約する。
4	学術論文の読み方③	テキストとする拙著「欧米諸国における生活と文化」を講読し、要約する。
5	学術論文の読み方④	テキストとする拙著「欧米諸国における生活と文化」を講読し、要約する。
6	テキスト講読1-①	受講学生の希望する文献を講読し、要点を整理する。
7	テキスト講読1-②	受講学生の希望する文献を講読し、要点を整理する。
8	テキスト講読1-③	受講学生の希望する文献を講読し、要点を整理する。
9	テキスト講読1-④	受講学生の希望する文献を講読し、要点を整理する。
10	テキスト講読2-①	受講学生の二つ目の希望文献を講読し、要点を整理する。
11	テキスト講読2-②	受講学生の二つ目の希望文献を講読し、要点を整理する。
12	テキスト講読2-③	受講学生の二つ目の希望文献を講読し、要点を整理する。
13	テキスト講読2-④	受講学生の二つ目の希望文献を講読し、要点を整理する。
14	テキスト講読 予備日	積み残しの課題を扱う。
15	前期まとめ	前期の授業を振り返り、夏休みの課題を確認する。
16	後期ガイダンス	受講学生の夏休みの課題への取り組みを確認し、後期の授業の進め方を相談する。
17	研究報告①	研究課題への取り組みの現状を報告する。
18	研究報告②	研究課題への取り組みの現状を報告する。
19	テキスト講読3-①	三つ目の希望テキストを講読し、要点を整理する。
20	テキスト講読3-②	三つ目の希望テキストを講読し、要点を整理する。
21	テキスト講読3-③	三つ目の希望テキストを講読し、要点を整理する。
22	テキスト講読3-④	三つ目の希望テキストを講読し、要点を整理する。
23	テキスト講読4-①	四つ目の希望テキストを講読し、要点を整理する。
24	テキスト講読4-②	四つ目の希望テキストを講読し、要点を整理する。
25	テキスト講読4-③	四つ目の希望テキストを講読し、要点を整理する。
26	テキスト講読4-④	四つ目の希望テキストを講読し、要点を整理する。
27	研究報告③	各自の研究課題の現状を報告する。
28	研究報告④	各自の研究課題の現状を報告する。
29	まとめ①	前回までの報告を踏まえて、課題を確認する。
30	まとめ②	前回までの発表、および一年間の講義を振り返る

<b>科目名</b>	考古学演習	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	会田 容弘		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	考古学資料に関するテーマを選択し、資料認識の方法、その研究史を中心にまとめ、発表をおこない、学生同士の討論を行い、学習を深めて行くのが目標である。 本学では2001年以来会津若松市湊町大字赤井字笹山原に位置する笹山原遺跡No. 16の発掘調査を継続して行っている。笹山原遺跡No. 16は平安時代、縄文時代前期、後期旧石器時代の複合遺跡でそこから出土した資料を用いて、実践的な演習を行う。発掘資料の整理、データ整理、記録法、写真撮影などの実践を踏まえて、資料に対する認識力を深め、論文読解を経て、学術的議論ができるような訓練を行う。		
<b>達成目標</b>	<到達目標> 考古資料の理解を経て、記述が可能なレベルにまで到達できること。 考古学の学術論文を読み、批判的に検討できるレベルに到達すること。		
<b>受講資格</b>	考古学の十分な理解があること	<b>成績評価 方法</b>	レポート及び発表内容(レポート70%、発表30%)で60点以上の理解度で、合点とする。考古学で論文を作成する学生は80点以上の理解度を求める。
<b>教科書</b>	イニザン他『石器研究入門』 山中一郎「考古学における方法の問題」		
<b>参考書</b>	文化学科(資格課程)報告集第4～18集		
<b>学生への要望</b>	考古学実習発掘に参加すること。発表と議論が中心になるので事前の準備を十分行うこと。事前準備が予習にあたる。発表内容への指摘点、修正指導点は復習としておこなってほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日2・4時限目。緊急の場合はそれ以外でも可。		
<b>自学自習</b>	予習：前回の演習内容を確認し、次回の演習内容を理解するために指定された文献を読んでおくこと。発表がある場合は事前準備を怠らないこと。(1時間) 復習：演習内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。(1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	考古学演習の説明	演習の進め方についての説明。
2	発掘調査準備(1)	笹山原遺跡No. 16の発掘調査を行うにあたっての基本的な準備を行う。機材の確認、機材の操作方法の確認、発掘調査過程の確認を行う。
3	発掘調査準備(2)	発掘調査に用いる図面、遺物カード、手引きなどの製作を行う。
4	発掘資料整理(1)	石器遺物の整理方法について説明する。発掘調査で出土した石器遺物の整理(水洗、写真撮影、ネーミング)を行う。同時に写真をデータベースに登録する。
5	発掘資料整理(2)	発掘調査で出土した石器遺物の整理(水洗、写真撮影、ネーミング)を行う。同時に写真をデータベースに登録する。
6	発掘資料整理(3)	発掘調査で出土した石器遺物の整理(水洗、写真撮影、ネーミング)を行う。同時に写真をデータベースに登録する。
7	石器遺物の研究法	笹山原遺跡No. 16から出土した縄文時代石器、後期旧石器時代石器を対象として、石器研究の方法を説明する。石器は人間の動作によって作られる。その動作とは技術である。石器技術を製作の計画であるメソッドと石器製作の行為であるテクニックとに分けて考えることを提唱したのが、J. チェンエである。その考えのもと、A. ルロワーグラーの唱える動作連鎖仮説に立脚した石器研究の具体的方法を提示したのが、J. ペルグランである。これらの概念、研究法について説明する。
8	石器遺物の観察法(1)	石器遺物の見方について説明する。説明は石器製作実験を行いながら行う。硬質ハンマーの直接打撃、軟質ハンマーの直接打撃、有機質ハンマーの直接打撃の説明を行う。
9	石器遺物の観察法(2)	石器遺物の見方について説明する。説明は石器製作実験を行いながら行う。間接打撃、押圧剥離の説明を行う。
10	石器遺物の観察法(3)	石器遺物の見方について説明する。説明は石器製作実験を行いながら行う。敲打(ベッキング)による加工、研磨による加工の説明を行う。
11	石器遺物の観察法(4)	石器遺物の見方について説明する。説明は石器製作実験を行いながら行う。石器の製作過程により様々な形状の剥片が剥離される。代表的なメソッドである石刃メソッドの説明を行う。
12	石器遺物の観察法(5)	石器遺物の見方について説明する。説明は石器製作実験を行いながら行う。石器の製作過程により様々な形状の剥片が剥離される。代表的なメソッドである瀬戸内メソッドの説明を行う。
13	石器遺物の観察法(6)	石器遺物の見方について説明する。説明は石器製作実験を行いながら行う。石器の製作過程により様々な形状の剥片が剥離される。代表的なメソッドである細石刃メソッドの説明を行う。
14	石器遺物の観察法(7)	石器遺物の見方について説明する。説明は石器製作実験を行いながら行う。石器の製作過程により様々な形状の剥片が剥離される。代表的なメソッドである両面体メソッドの説明を行う。
15	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(1)	実際に出土した笹山原遺跡No. 16の石器遺物の全体を観察する。
16	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(2)	石材分類。笹山原遺跡No. 16から出土する石器遺物は様々な石材が用いられている。石材を理解し、その石材別の分類を行う。
17	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(3)	母岩分類。同一の石材であっても、異なる母岩から製作されている。中には同一母岩から剥離された石器が存在することがある。それらを認識し分類する。
18	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(4)	同一母岩に分類したものの中で、遺跡の中で剥片剥離行為がなされた場合、まれに接合する場合がある。それを捜し求める作業を行う。全部のピースがそろっていない立体ジグソーパズルである。接合する資料が確認された場合、それはその石器が持ち運ばれたか、石器製作中に飛び散ったかなどという具体的に石器時代人の行為を実証することができる。
19	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(5)	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。
20	笹山原遺跡No. 16の石器遺物観察(6)	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。
21	石器の記録(1)	石器の記録方法として実測と写真撮影がある。その基本を説明する。
22	石器の記録(2)	写真撮影と実測を実際に行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	土師器の写真撮影	土師器の記録方法として写真撮影を行う。デジタルカメラを用いて、ライティングを調節しながら行う。
24	土師器の観察（１）	土師器の破片資料の観察を行う。観察表の作成を行う。
25	土師器の観察（２）	土師器の観察表を作成し、集計を行う。
26	土師器の実験考古学	粘土を用いて土師器を実験的に製作する。
27	縄文土器の理解	笹山原遺跡No. 16から出土した縄文土器破片を観察し、との特徴を調べる。胎土、文様、器形、調整などの要素の見かたについて説明し、実際の遺物解説の発表を行う。
28	縄文土器の記録	縄文土器の記録方法として、拓本をとる。拓本の技術は既に修得しているので、実際に笹山原No. 16遺跡出土の縄文土器を採拓し、前回の観察内容を記述し、発表する。
29	縄文時代の石器理解	縄文時代の石器を検討する。笹山原No. 16遺跡から出土した縄文時代の石器を取り上げ、その石材、製作技術の特徴についてそれぞれ発表する。
30	縄文時代の石器の記録	石器を理解したうえで、写真撮影、実測を行う。撮影方法、実測方法については、博物館実習、日本の考古学で修得していることを前提に行う。

科目名	哲学的人間論	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
担当教員	小阪 康治		
開講期	前期		
授業概要	<p>哲学の目的は、人間のあり方について、人間のいちばん本質的なところから、自分で考えてみることにあります。哲学の長い歴史の過程で、正確な知識とはなにか、なにが理想なのか、などの問題が出てきました。それで講義は、具体的な事例を説明することを中心します。理屈ばかりの話は、哲学本来のものではありません。実際の生活に基づいて、それと理論との関係は話しますが、一番重要なのは、受講者が自分自身で、人間や人間社会について考えることなので、この練習もします。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度理解できたか。</p>		
達成目標	<p>哲学の目的は、人間のあり方について、人間のいちばん本質的なところから、自分で考えてみることにあります。哲学の長い歴史の過程で、正確な知識とはなにか、なにが理想なのか、などの問題が出てきました。それで講義は、具体的な事例を説明することを中心します。理屈ばかりの話は、哲学本来のものではありません。実際の生活に基づいて、それと理論との関係は話しますが、一番重要なのは、受講者が自分自身で、人間や人間社会について考えることなので、この練習もします。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度理解できたか。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	試験30%。講義時間内の発言30%。小論文40%。
教科書	受講者と相談して決める。		
参考書	受講者と相談して決める。		
学生への要望	<p>現在の社会は、積極性のある人材を望んでいるので、なによりも積極的に発言し、ときどき課す小論文などでも、前向きな思考法身につけるつもりで講義に臨んで欲しい。</p> <p>講義への反応、学生諸君の興味、関心などを考え合わせ、また社会状況におうじて、講義のテーマや内容は、変えることもありますので、シラバス通りにはならないこともあります。</p> <p>講義は、分かりやすく、面白く、ためになるようにやります。なので、ノートをきちんと取る、自分の頭で考えることを要望します。</p> <p>従って、講義のテーマについて事前に考え、講義後にもう一度自分の考えをまとめることが、講義をよく理解するために必要です。それは小論文や試験の際に役に立ちます。</p>		
オフィスタイム	火、水曜日昼休み。研究室		
自学自習	予習より復習を重視して欲しい。各回のテーマの中から試験問題が出るので、講義後、ノートの整理だけでなく、テーマについての自分の考え方をまとめておくと試験時に良い結果が出ると思う。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義の内容、目的、方法の説明	<p>学問としての哲学的人間学を概観します。哲学的人間学という、ものものしいのですが、ようするに人間が生きていくときに遭遇するいろいろな問題を、きちんと考えようとする学問です。</p> <p>そこで15回分の講義の内容を概略説明します。</p> <p>それから講義の進め方、ノートの取り方、講義中の積極性、小論文練習の役割、出欠、これらの評価にもとづいて成績をつけるときの基準などを説明します。</p>

<b>科目名</b>	日米比較生活論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	J・ティルマント			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	<p>現代的な生活様式や考え方はもちろんのこと、今日の西洋文明は長い歴史の発展における成果である。学生には、西洋の特にアメリカの社会や考え方を理解させるために、その文明や思想を生み出した歴史的な事柄についての一般的な知識を解説する。</p> <p>この授業では、今日の日米におけるさまざまな生活様式や文化の違いについて学び。また、社会と文化の意味と定義し、異なった社会における生活様式の違いなどを考察することにより、それらの相違の理由を理解する。各国に共通である人種・民族の多様性・老人・犯罪・経済の不平等といった社会を識別し比較する。</p> <p>また、アメリカの宗教・政治・教育・家庭・社会生活などのトピックを設け、それらについてわかりやすく解説する。</p> <p>Points of class evaluations:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding key differences between American and Japanese political and social development.</li> <li>2. Knowledge and understanding of key points of American culture and social traits.</li> <li>3. Understanding of the back ground to many of the social issues in America today.</li> <li>4. A realistic idea of modern American lifestyles of various social, age and other groups and how they compare to those in Japan.</li> </ol>			
<b>達成目標</b>	<p>現代的な生活様式や考え方はもちろんのこと、今日の西洋文明は長い歴史の発展における成果である。学生には、西洋の特にアメリカの社会や考え方を理解させるために、その文明や思想を生み出した歴史的な事柄についての一般的な知識を解説する。</p> <p>この授業では、今日の日米におけるさまざまな生活様式や文化の違いについて学び。また、社会と文化の意味と定義し、異なった社会における生活様式の違いなどを考察することにより、それらの相違の理由を理解する。各国に共通である人種・民族の多様性・老人・犯罪・経済の不平等といった社会を識別し比較する。</p> <p>また、アメリカの宗教・政治・教育・家庭・社会生活などのトピックを設け、それらについてわかりやすく解説する。</p> <p>Points of class evaluations:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding key differences between American and Japanese political and social development.</li> <li>2. Knowledge and understanding of key points of American culture and social traits.</li> <li>3. Understanding of the back ground to many of the social issues in America today.</li> <li>4. A realistic idea of modern American lifestyles of various social, age and other groups and how they compare to those in Japan.</li> </ol>			
<b>受講資格</b>		<b>成績評価 方法</b>	授業内容の理解度を確認しながら、テストまたはレポート (80%)・出席状況・学習態度・提出物 (20%) で評価	
<b>教科書</b>	授業内で参考文献を指示する			
<b>学生への要望</b>	Most Japanese students today have a general understanding of many of the characteristics of modern American society. The purpose of this class is to help students understand better how those characteristics came to be, and how they affect various issues that face American society today. Therefore, class content will mix certain historical events with current topics or themes of interest to help us understand the thought process of current-day American culture and society.			
<b>オフィスタイム</b>	1. 火 4:10-5:30    2. 水 5:40-6:000    3. By appointment    or any time I am there.			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	General Introduction□	授業内容、評価方法についての説明

平成29年度

<b>科目名</b>	衣生活文化論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	田辺 真弓		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>本科目は、人間生活学科の教育目標に沿って設けられている人間生活学科専門科目・生活学系の選択科目である。また、短期大学部専攻科文化学専攻の専門関連科目である。</p> <p>衣服は人がそれを装うときに成り立つものであり、衣服の主人公は人間である。衣服にはいろいろな時代背景や社会状況の中で、人間の様々な心情が託されてきた。本講義では、衣服を人間の存在と結び付けて長い間に培われてきた文化のひとつとして捉え、衣服が着る人の心とどのようにかかわっているかを考える。衣服の機能、衣服への感情移入、衣服の流行、制度と慣習、日本と西洋との色彩感情の違い等に着目する。さらに服飾研究の進め方について例を挙げて解説し、服飾研究に対する関心を高める。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>衣生活を文化的面から見る姿勢を養うとともに、服飾研究について関心を持つこと。課題3回に意欲的に取り組み、期末レポートについては、研究課題を自ら設定して資料を収集し、論述を進めて完成させること。</p>		
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科生活総合コース4年生 短期大学部専攻科文化学専攻1・2年生	<b>成績評価 方法</b>	①課題3回 30点 ②期末レポート 70点 60点以上で合格点とするが、授業理解度は8割以上を求める。
<b>教科書</b>	教科書は用いず、資料を配布する。		
<b>参考書</b>	増田美子 編 『日本衣服史』 吉川弘文館、小池三枝 著 『服飾文化論』 光生館、小池三枝 著 『服飾の表情』 勁草書房、徳井淑子 著 『服飾の中世』 勁草書房、徳井淑子 著 『ヨーロッパ服飾史』 河出書房新社、その他、授業で紹介する。		
<b>学生への要望</b>	衣生活文化に関心をもつとともに、授業で紹介した参考文献にはできるだけ目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。		
<b>オフィスタイム</b>	家政学館4階 福祉情報専攻研究室 火曜日IV・V時限		
<b>自学自習</b>	<p>事前学習:「シラバス」の授業内容とスケジュール表に基づき、授業で取り上げる内容について、参考図書、服飾事典等で調べる。(1時間) 事後学習:授業で学んだ内容についてノートにまとめ、疑問点等について調べるとともに、次回の授業において質問できるよう、質問項目をまとめる。併せて、学期半ば以降は、期末レポートの課題設定について考え、課題を決定次第、資料収集を進め、レポート作成に取り組む。(1時間)</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業計画の提示 日本風俗美術館服飾解説	授業計画を提示し、授業目標ならびに授業内容について説明する。図書館1階の日本風俗美術館に展示されている風俗人形の服飾、ならびに時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。



平成29年度

<b>科目名</b>	食生活概論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	緻野 信子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。		
<b>達成目標</b>	<p>「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】を達成することを目標とする。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。          ②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。          ③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。</p>		
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年	<b>成績評価 方法</b>	①ノートまとめ20% ②課題30% ③期末試験50%
<b>教科書</b>	①指定の資料を各自コピーして持参する。 ②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。 ③「はじめてのカラーハンドブック カラー&ライフ」財団法人日本色彩研究所監修 日本色研事業株式会社		
<b>参考書</b>	①授業内で案内する		
<b>学生への要望</b>	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 2. 各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。 3. ノートをしっかりとって下さい。 4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 5. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日4時限および木曜日5時限目のNo.2食品学研究室		
<b>自学自習</b>	予習：毎回、次週に向けた予習内容を指示しますので、そのことについて事前学習をして下さい（1時間）。 復習：その日の授業内容についてノート整理をしてください（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の目的	「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。

平成29年度

<b>科目名</b>	住生活概論		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。			
<b>達成目標</b>	①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。 ②家族と間取りとの関連について考察する。 ③UD住宅の在り方について理解する。 ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科	<b>成績評価 方法</b>	①定期試験70% ②提出図面30%	
<b>教科書</b>	私たちの住居学—サステナブル社会の住まいと暮らし			
<b>参考書</b>	「住宅の計画学入門」鹿島出版会 「ダ・インク・キッチンはどうして誕生した」技報堂出版			
<b>学生への要望</b>	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。			
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)			
<b>自学自習</b>	予習：住まいにおける問題について常に興味関心を持ち、問題点を把握する(1時間)。 復習：問題解決に向けての方策を考える(1時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明します。次に、身近な福島の住宅デザインの変遷について学び、建築デザインが決定する要素を考える。

平成29年度

<b>科目名</b>	生活経済学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	長谷川 貴弘			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>本授業では、経済学においてより生活と密接につながっている分野について学習を深める。現代社会において、我々の生活は貨幣を媒介とした経済活動なしには維持していくことはできない。それ故に、経済に関する知識を高め、経済への理解を深めることは、今後社会人として生活をしていく上で必須のものとなると思われる。</p> <p>本授業では、一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について採り上げる。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について理解を深めることを目標とする。</p>			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 3年生 家政学部 食物栄養学科 3年生	<b>成績評価 方法</b>	①小テスト30点 (15点×2回) ②レポート70点	
<b>教科書</b>	プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	大藪千穂「生活経済学」放送大学教育振興会			
<b>学生への要望</b>	本授業の内容は、いずれも社会人として経済活動にかかわっていく上で必須のものとなると思われるのでしっかりと取り組んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜8:30~14:20、金曜14:30~17:05 食品衛生学・経営管理学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：事前に渡したプリントを見て内容を理解する(1時間)。 事後学習：プリント・ノートを見直して内容の理解を深める(1時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・生活経済の歴史	授業の進め方、評価方法について説明する。 古代から現代までの生活経済を概観し、生活経済学の位置付けについて学習する。

平成29年度

<b>科目名</b>	家族関係学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 4年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	知野 愛		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。教職(家庭科)の必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。		
<b>達成目標</b>	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科4年生、食物栄養学科4年生、専攻科1年生	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート50点 ②授業中のリアクションペーパー10点 ②最終レポート40点
<b>教科書</b>	なし。プリントを配布します。		
<b>参考書</b>	その都度紹介します。		
<b>学生への要望</b>	課題レポート(宿題)の提出は5回ありますが、授業内容をこのシラバスで確認し、事前学習として主体的に学ぶことを求めます。		
<b>オフィスタイム</b>	木曜I限または水曜I限、家政学館4階被服学研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習: 課題レポートの作成、課題レポートがない回には読んでくるべき資料を事前配布する(1時間) 事後学習: 次回の課題レポートの作成、課題レポートがない回には授業で学んだ資料からポイントをノートに箇条書きし要点を復習する(1時間) 最終課題レポートは、図書館へ行き関連図書を探し、独自性のあるレポートを作成すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家庭の意義について考える。

平成29年度

科目名	情報処理演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	前期		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい!がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 木曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryama-kgc.ac.jp		
自学自習	予習 授業該当箇所の動画をオフィスソフトを操作しながら見る。(約1時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。(約1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード <a href="http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/">http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/</a>
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数値の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ。

平成29年度

<b>科目名</b>	社会調査法	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 福祉コース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	長谷川 貴弘		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。		
<b>達成目標</b>	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。		
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	<b>成績評価 方法</b>	①小テスト30点 (15点×2回) ②課題 (レポート) 70点
<b>教科書</b>	プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社		
<b>学生への要望</b>	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日 8:30~12:00 食品衛生学・経営管理学研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習：次回の授業の内容をプリント等から確認すること (1時間)。 事後学習：ノート・プリントを見直して、授業の内容を復習すること (1時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学習する。

平成29年度

<b>科目名</b>	生活情報	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化 学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小山 裕		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	生活の中で私たちは常に様々な問題の解決を求められます。膨大な情報の中からどうすれば必要な情報を手に出来るのでしょうか。手にした情報をどう処理すれば問題を解決出来るのでしょうか。コンピュータなどの情報機器を活用しながら私たちの頭をどう使って行けばいいのか、時に古代のギリシア人と知恵比べをしたり、楽しみながら学んでいきましょう。 【履修カルテの評価項目】 1. 問題解決に必要な情報が入手できること。 2. 入手した情報を処理し問題が解決できること。 3. 問題解決に情報機器が利用できること。		
<b>達成目標</b>	生活の中で私たちは常に様々な問題の解決を求められます。膨大な情報の中からどうすれば必要な情報を手に出来るのでしょうか。手にした情報をどう処理すれば問題を解決出来るのでしょうか。コンピュータなどの情報機器を活用しながら私たちの頭をどう使って行けばいいのか、時に古代のギリシア人と知恵比べをしたり、楽しみながら学んでいきましょう。 【履修カルテの評価項目】 1. 問題解決に必要な情報が入手できること。 2. 入手した情報を処理し問題が解決できること。 3. 問題解決に情報機器が利用できること。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	出席、授業態度、レポート、など
<b>教科書</b>	担当教員作成のプリント		
<b>参考書</b>	担当教員作成のプリント		
<b>学生への要望</b>	人類の見てきた夢とその実現のために手にしてきた方法を受け取りましょう。		
<b>オフィスタイム</b>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	問題解決の手掛かりは目の前に	紀元前、ギリシア人は離れた町で月の見え方が違うことから月までの距離を計算し、太陽の見え方の違いから地球の円周を計算し、夕暮れ頭上に見える半月から太陽までの距離を計算しました。水を見て原子の存在にも気付きました。

平成29年度

<b>科目名</b>	総合英語 I		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	J・ティルマント			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>A. Express personal information and preferences.          B. Describe pastimes and opinions about them.          C. Talk about your family and their characteristics.          D. Take a comprehensive written examination.</p>			
<b>達成目標</b>	<p>1. The main objective is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on English communication and listening.          2. Students will learn how to self-evaluate their coursework and then learn ways to improve their ability on homework, quizzes, reports, etc.          3. Another goal is to be able to express cultural information about Japan and other countries.</p>			
<b>受講資格</b>	大1年 A・B家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	<b>成績評価 方法</b>	<p>1. Participation, Attitude (10%)          2. Classwork, Quizzes (30%)          3. Final Written Test (60%)</p>	
<b>教科書</b>	"Impact Conversation 1" by Kristen Sullivan and Todd Beuckens. Publisher: Pearson and Longman.			
<b>参考書</b>	(none)			
<b>学生への要望</b>	<p>1. Please attend all classes.          2. Always do classwork, homework and CD listening.          3. Study hard for the 3 quizzes and final test.</p>			
<b>オフィスタイム</b>	Monday 1st Period (8:50 - 10:20) and by Appointment, Research Room			
<b>自学自習</b>	Advisable to partake in self-study and review at home. Self-study and review hours should be more than twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours).			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction and Guidance. Unit 1.	Guidance about the textbook, tests, quizzes, homework, attendance, etc. Unit 1 - Guess Where I'm From: Pages 8-9, 81, CD Tracks 2-8.